いわて幸福白書

2024

第1部 令和6年の幸福トレンド

対談
地方の魅力や生活文化の
豊かさから生まれるウェルビーイング
作家・写真家 クレイグ・モド 氏 × 岩手県知事 達増拓也

若い女性の流出を止める、人口増の対策が今後の鍵
株式会社ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー 天野馨南子 氏

幸福度を高める身近な取組

誰もが個性を発揮できる“異彩の発信地”いわてに
株式会社ヘラルボニー 代表取締役Co-CEO 松田崇弥 氏 代表取締役Co-CEO 松田文登 氏

岩手に移住して知った、暮らしと地続きの幸福
芸人・タレント 天津木村 氏

第2部 「希望郷いわて」の今

第3部 データ編

岩手県

2024 | いわて幸福白書 | はじめに

岩手県の総合計画「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」は、広く意見をうかがいながら、「オール岩手」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、ＮＰＯなど多様な主体が10年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

岩手県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。

「いわて県民計画（2019 ～2028）」のもと、こうした復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的・経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切にしながら、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策を推進し、東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。

「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広くお伝えするものです。

近年のコロナ禍による婚姻数の急減とこれに伴う出生数の減少が進む中、2023 年のニューヨーク・タイムズ紙の「行くべき 52 カ所」で、地方都市である盛岡市が選ばれ、また、2024 年に山口市が選ばれたことは、世界的な視点から見て、日本の地方は大変価値があり、魅力的だということを確認させてくれました。

これらの価値や魅力を発信し、岩手を世界に大きく開いていくことは、人口減少対策に最優先に取り組む「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」第２期アクションプランの推進の大きな力となることが期待されます。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスを捉えるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。

みんなが希望の道を
進むことができる岩手に

この子の笑顔を守ること

家族と笑顔で過ごすこと

自然を満喫すること

若手の成長を見守ること

夢に向かって努力すること

チャレンジし続けること

孫のお世話をすること

｜岩手県｜雫石町｜小岩井農場一本桜と岩手山｜

もくじ INDEX

P.2 はじめに

P.5 第１部　令和６年の幸福トレンド

有識者等から、幸福に関する国の動きや最新研究等も踏まえ、令和６年の幸福トレンドについて、論じていただきます。

対談「地方の魅力や生活文化の豊かさから生まれるウェルビーイング」
作家・写真家　クレイグ・モド 氏
岩手県知事　達増　拓也

INTERVIEW「若い女性の流出を止める、人口増の対策が今後の鍵」
株式会社ニッセイ基礎研究所
人口動態シニアリサーチャー　天野　馨南子 氏

幸福度を高める身近な取組

県民総参加による幸福度の向上につながる取組の更なる推進に向けて、県内外で幸福度を高める取組を行っている方々を御紹介します。

INTERVIEW.1「誰もが個性を発揮できる“異彩の発信地”いわてに」
株式会社ヘラルボニー　代表取締役 Co-CEO　松田　崇弥 氏
代表取締役 Co-CEO　松田　文登 氏

INTERVIEW.2「岩手に移住して知った、暮らしと地続きの幸福」
芸人・タレント　天津　木村 氏

P.25 第２部　「希望郷いわて」の今

“県民の幸福感の現状” として、県民意識調査の調査結果を紹介します。また、“県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果” として、「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる10の政策分野の政策評価結果を紹介します。

P.57 第３部　データ編

第２部で使用したデータを一覧で紹介します。

第1部

令和６年の幸福トレンド

岩手県 北上市 展勝地

対談

地方の魅力や生活文化の豊かさから生まれるウェルビーイング

作家・写真家
クレイグ・モド × 岩手県知事 達増拓也

ニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52カ所」において、盛岡市を「歩いて回れる宝石的スポット」（a walkable gem）と紹介した作家・写真家のクレイグ・モドさん。
「ウォーカー」として日本各地を数千キロも歩いた経験を基に、「盛岡をはじめとする地方の魅力」や「生活文化の豊かさから生まれるウェルビーイング」について、達増知事と語っていただきました。

知事　モドさんは、日本の各地を回って、そこを歩いて、地域を見て、そして地域の人と会い、行事に参加したりしていますが、どうしてそういうことをしようと思ったのですか。

モド　最初は大学に入学するために日本に来ました。大学院に入学する時にもまた戻ってきて。専攻がコンピュータサイエンスと文芸と芸術でした。写真もやっていて、その後独立して会社を始めて、2010年には米国カリフォルニア州パロアルトで仕事をしていました。2013年に、やはり日本が良いと思って戻ってきたのですが、なぜ日本に住んでいるのかということを自問してみました。
マクブライドさんというオーストラリア人の友人がいるのですが、彼は外語大学の学生の時に、日本文学の授業で、松尾芭蕉などを読み始めて、文学の素顔を知るために、東海道や中山道、四国の88ヶ所、奥の細道を歩いていました。そして、そんな彼から「歩きますよ」と呼ばれて、2013年に初めて熊野古道に行きました。そこで、こんな面白い歴史を感じる道もあるのだと、初めて知ったのです。彼と一緒に歩き始めたら、すごく充実している活動だなと思いまして。何が面白かったかというと、彼は綺麗な日本語で喋るので、田舎のいろんな人たちの家に行って、すぐに親しくなれるのですね。彼を見て、こんなに人類学的な活動ができるのだと気づきました。それに気づいたら、どんどんそういう取材をするようになりました。2013年から2016年頃までは、彼とほぼ毎年一緒に2、3か月ぐらい歩いて、それがすごく勉強になって。その後は1人で、歩き始めるようになりました。

知事　やはり歴史と自然と、そしてその中で歩いたり、体を動かしたり、いろんな人間の活動ができるという、そういうところが好きなのですね。

モド　そうですね。最近、人類学者の宮本常一さんが1960年に出した『忘れられた日本人』という本を読み始めています。彼の真似を少ししているような感じがしていて、こんなことをすごく素敵にやっていらっしゃったのだなって思いながら読んでいます。1,200以上の地方の人の家に泊まったり、インタビューをしたりしています。

Craig Mod
クレイグ・モド

神奈川県鎌倉市在住、アメリカ人。早稲田大学留学後、『The New York Times』『WIRED』などに寄稿すると同時に、作家、フォトグラファー、パブリッシャーとして幅広く活動。MediumやSmartNewsのアドバイザー、イエール大学（米国）講師など国内外で活躍する。『Art Space Tokyo』（2010）、『Koya Bound』（2016）、『Kissa by Kissa』（2020）など著書多数。

彼の本を今読むべきだと思い、実際に読み始めて正解でした。すごく影響を感じています。
なぜなら、昭和に立ち上げた喫茶店やジャズ喫茶、床屋や、それらがある村や商店街が当時すごく元気だったのですが、今はシャッター街になっています。彼が見た戦後の1950年代、1960年代と同じような状況になっているように感じます。彼がいろんな人と出会って、みんなの話を聞いて、人生のそういう幸福について、どうやったら幸福とか、ウェルビーイングを感じるのか、彼もすごく研究していたと思います。そして、彼も多分その活動ですごく幸福を感じていたと思います。

知事　モドさんが、アメリカで仕事をして、日本に戻ってきて、そしてそのときに日本に住んでいることの意味を考えたとのことですが、日本人も同じように考えなければならないと思います。日本にいて、どう生きていくのか、東京のような大都会に行きさえすればいいのかということが問われています。本当は地方の方が生活や仕事をする場所としていいのではないかということを日本のみんなが今考えなくてはならない時だと思います。

モド　日本では昔からの産業が一切なくなって、ほとんどシャッター街になっている町もありますが、日本だけではなくて、本当に今、イタリア、ギリシャ、アメリカ、フランスもそうですし、似たような問題が世界中であります。その中で、日本の何がいいかというと、医療保険制度のような社会的な土台がすご

盛岡の豊かな日常に触れ癒されました

く強い点だと思っています。例えば、アメリカで、万が一怪我したり、精神的な病気になったりとかすると、どこまでも落ちやすい状態になっています。私は日本の社会的土台がある上で、作品を作り、豊かな人生を過ごすのが、やりやすいと思っています。だからよくインタビューで私は盛岡に行って、そういう街に癒されたっていう言葉をよく使っているのですけど、それはやはりBOOKNERDの早坂さんだったり、床屋の平澤さんだったり、東家の馬場さんだったり、個人で頑張って家族を育てながら、生きがいを持って、ウェルビーイングをちゃんと大事にしながら毎日を過ごせることが当たり前になっている状態が、すごくパワーポイントだと思っています。

知事　そうですね。日本は盛岡でも、400年前にお城ができてからの歴史がありますし、それから日本は昔から、困ったときには生まれた場所や住んでいる場所で助け合って生きてきたので、今でもそういう雰囲気が残っているのだと思います。

モド　そういうことが感じられることは素晴らしいと思います。ウェルビーイングは、ハピネスというより、充実感から生まれてくると思っています。やはり充実感を得るには、そういう土台がないと、いろいろリスクや不安が生まれます。何が充実の元かというと、喫茶店のクラムボンさんみたいなところでは、やはり珈琲豆を深く知りたい、BOOKNERDの早坂さんは本や芸術も深く知りたい、その深くした知恵をみんなとシェアしたい、そこからウェルビーイングがすごく生まれていると思っていて、日本の今の社会の状態だと、そういうことを深く入り込むのが非常にしやすい状態になっている国だと思っています。

知事　（「2024年に行くべき52カ所」に選ばれた）山口市もそういうところがありますか。

モド　もちろん盛岡だけじゃなく、山口市もそうですね。

知事　山口市に行ったときに感じたのですが、盛岡市に似ている雰囲気があるなと思います。

モド　私が山口市に初めて行ったのは、先ほど話したマクブライドさんに、「萩往還を歩きましょう」と誘われて、一緒に山口市をベースにして歩きに行きました。当時も盛岡市と似たような感じで、すごく綺麗な街でなかなか良いところだなと思って、去年、ニューヨーク・タイムズに聞かれたときに、山口市を推薦しました。まさか3位になるとは思わなかったのですが、でもみんな喜んでくれたみたいです。山口市はそんなに町おこしをしなくても、すごく元気ですし、福岡と広島の間なので、すごく行きやすい場所です。また、山口市には湯田温泉とか萩往還があり、盛岡と

「仕事と生活の充実」は地方が向いていますね

似たようなウェルビーイング感がすごくあって、とても感動しました。特定の名物とかというより、町全体のウェルビーイング感を感じて、面白かったです。

知事　モドさんは、盛岡市や山口市のような中規模都市の元気の良さに関心があるということですけど、岩手県には人口5,000人以下の町や村もありますが、そういう日本の地方の人口の少ないところの魅力についてはどう思いますか。

モド　そうですね。人口が少なくても、焼き物や温泉の歴史など特徴があるとうまくいけると思いますし、そういうものがなくても中核市をベースにして、近くの町村の町おこしができると、チャンスはあると思います。

知事　そうですね。過疎の町村のように、人口がとても少ないところをどうやって経済的に、社会的に発展させるかを考えたときに、都市に住んでいる人とのつながりが強いところは、発展する可能性が高いなと思いました。例えば、お祭りをやった時に、東京などからファンが来てくれることがありますが、そういう魅力的な文化や歴史、美味しい食べ物などが、都市の人たちにも知られていると、持続可能な発展ができるなと思います。

モド　そういうものがピンポイントで一つでもあれば、違うと思います。

知事　日本の地方というのは本当にいいなと改めて思いますが、ニューヨーク・タイムズも、去年の盛岡に続き今年、山口市ということで、日本の地方を世界の人たちに紹介してくれたのはとてもありがたいと思っています。世界的に日本への関心が高く人気があり、その中でやはり地方を紹介したということでしょうね。

モド　コロナ禍で鎖国みたいになっていて、それが開かれて久しぶりに日本行けるようになったから、有名な京都などではなく、もうちょっと面白いところに行って冒険しましょうという哲学だったと思います。やはり日本には、マンガやアニメ文化などもあり、興味を持たない国はないと思っています。南アメリカ、ヨーロッパ、中国そしてアジア全体で、多くの人が日本に来たがっています。また、盛岡にとっても、2位になって、すごくいい経験だったと思います。昨年の10月か11月に盛岡市の高校生たちがニューヨーク・タイムズ社に行ってきたのですよね。

知事　岩手県の事業として派遣しました。

モド　ニューヨーク・タイムズの編集者たちにとって、こんなにいい影響があったのは初めてかもしれないですよ。彼らが発表した「52カ所」の力が、今までちゃんと理解できていたかどうかわからないです

「モド氏が見た盛岡の風景」　提供　クレイグ・モド氏

からね。盛岡のみんながこんなに喜んでくれて、町おこしにもなり、経済的ないい影響が生じたことは、今までになかったことだと思います。

知事　12月にマレーシアとシンガポールに行って、岩手県のお米、リンゴ、牛肉、日本酒をセールスし、あとは観光の宣伝をしてきました。私が外交官としてシンガポールの日本大使館で働いていた30年位前は、日本経済がまだ強くて、国際的にも日本経済の影響力が大きい時代でした。その頃に比べると日本の経済力は相対的に下がり、マレーシアやシンガポールでの日本の存在感やイメージが小さくなっているかもしれないと思っていたのですが、全然そうではなくて、日本食レストランの数が増え、日本の食べ物もどんどん売られており、マンガやアニメも前よりもずっと普及していて、日本への関心、人気は30年前より高くなっているのだと思いました。

また、日本に来る観光客の数も増えていますし、日本の生活文化ですね、食べ物や普段の街の様子やお祭りなど、そういったものは東南アジアの人たちにとっても面白いのだと思います。

モド　やはり日本のソフトパワーですね。中核市の町おこしとかも、いいソフトパワーの一つの例になれると思っています。
今、日本がすごく特別なのは、平和な国であるということです。今はガザの戦争もあり、ロシアとウクライナのこともあり、アメリカも戦争のような政治状態になっていて、どんどん安定しないところが増えています。
日本は、味のある、深みのある場所の上に、安全が含まれていて、日本の地方に行っても、心配なく冒険しやすい状態になっています。世界中が不安定になっている中で、日本はストレスのない大変素晴らしいところであると海外の人たちは思っています。日本人は当たり前だからあまり感じなくなっていますが、これもソフトパワーです。なぜ日本は安全が実現できているのか、それがこれから世界中からのすごく大事なテーマになります。

知事　それを大事にして、さらに持続的に発展させていきたいですね。

モド　そして、ウェルビーイングを感じてないと不安定になります。ウェルビーイングは、「仕事」から感じることも一つだと思いますし、「家族」、「コミュニティ」、「健康」、その4つがうまくいっていればいいと思います。盛岡に行ったときには、この4つがすごくいいと感じました。

知事　思えば、東京のような大都市だと、仕事でお金を稼ぐことはできても健康を犠牲にしたり、家族を犠牲にしたりすることがあるかもしれません。働くことと、家族

と楽しく過ごすことと、そして健康でいること、これらをバランスよく充実させるっていうのには、地方の方が向いているところがありますね。

モド　あると思います。リモートワークでいい給料をもらいながら、地方で生活できるようになりました。これからの10年、20年は、すごくチャンスだと思っています。東京の会社に勤めている私の友人で、リモートワークによって、山梨県に引っ越した芸術家が意外といて、山梨県でそういうコミュニティがちょっとずつ出来上がってきていて面白いです。東京まで行かないといい仕事が手に入らないなと思って、みんな地方から東京に出ていくのですが、もうちょっと落ち着いていたところで、子育てができたらいいと思っている方がたくさんいます。その希望と仕事をリモートワークなどでうまくつなげられれば、チャンスになると思います。

知事　そうですね、東京の人たちのウェルビーイングも上がってほしいですからね。生活は地方の方で時々暮らすようにしたり、仕事もオンラインを使えばリモートで地方からできるので、日本全体をそうやってうまくウェルビーイングが上がるように、この地方と大都市との関係を工夫していくことがこれから大事だと思いますね。岩手県はその中できちんといい役割を果たしていきたいと思います。

モド　できると思います。「自分はとても良いところに住んでいる」ということを最も感じてほしいのは、やはり小学生とか中学生、高校生。彼らにそういう影響があるとすごくありがたいなと思っています。やはり、いい町だと感じて、東京で勉強して、いつか戻って頑張りたいなということの参考になるとすごく嬉しいですね。

INTERVIEW

若い女性の流出を止める、人口増の対策が今後の鍵

株式会社ニッセイ基礎研究所　人口動態シニアリサーチャー

天野馨南子

あまの　かなこ

株式会社ニッセイ基礎研究所、人口動態シニアリサーチャー。東京都出身、東京大学経済学部卒。1995年日本生命保険相互会社入社、1999年より同社シンクタンクに出向。専門分野は人口動態に関する社会の諸問題。総務省「令和7年国勢調査有識者会議」構成員等、政府・地方自治体・法人会等の人口関連施策アドバイザー等を歴任。著書に『未婚化する日本』（白秋社・監修）、『データで読み解く「生涯独身」社会』（宝島社新書）等。

株式会社ニッセイ基礎研究所の人口動態シニアリサーチャーとして、人口動態に関する社会の諸問題を研究している天野馨南子さん。若い女性を中心に「転出超過」が続き、人口減少に歯止めがかからない岩手県の問題点を読み解き、その原因や今後の対策などについてご意見をいただきました。

―― 岩手県のみならず、人口減少に歯止めがかかっていない地方が多くあります。自然減・社会減が改善しない状況について、どのような見通しをお持ちですか。

天野　人口動態の研究者の立場としては、岩手県が自治体として生き残りたいという選択肢を取るならば、岩手で生まれる子どもたちを増やしていかなければならないと思います。特に、2015年から2022年では全国1番のスピードで出生数が減っていることが大きな課題であり、減少のスピードを緩めていかなければいけないと考えています。だからこそ、人口減少対策という問題に取り組むにあたって、まずは何をベンチマークするかということが大事です。

はじめに、岩手県の初婚同士の夫婦あたりの出生数の推移を見てみますと、半世紀前と比較しても、その数はあまり減少しておりません。これは、他の地方によっては逆に微増しているところもあるので、初婚同士の夫婦の子どもを持つ力は、それほど落ちていません。しかし、生まれる子どもの数は激減していて、これは婚姻数の激減と強い相関があります。つまり、少子化は、既婚女性が子どもを産まなくなったのではなく、未婚女性が増えたことが原因です。

では、この婚姻数を増やすためには、結婚に至る年齢というのを知らなければいけないのですが、初婚同士の男女の年齢を見ると、女性は30歳までの方の割合が7割、男性も6割程度が占めている状況であります。つまり、20代の男女に地元に残って結婚してもらえるような環境を整えることが重要になってきます。

また、東北圏の固有の問題でもあるのですが、地元に残った方の婚姻率も良くなく、出生率も全体的に低めに抑えられています。岩手県でも、若い男性の未婚率が女性に比べてかなり高くなっています。この要因の一つとしては、岩手県の2010年から2019年の10年間の転出超過数を見ますと、男性が約1万4千人、女性が約2万4千人であり、男性の1.7倍の女性が移動純減していて、男女の減少でアンバランスが継続発生していることが挙げられます。県全体で「男性あまり」の状態になっていると言えます。

―― 東京一極集中が再加速しそうな状況をどのように分析していますか。

天野　2023年11月までの東京一極集中の状況を分析しますと、東京都の社会増数については、圧倒的に20代が多いことが分かります。この要因として、大学等への進学が主な要因と主張する方もおりますがそれは間違いです。多くの20代が四年制大学に進学している時代では、卒業した大学がある場所の就職先ではなく、学んだことを活かせる就職先を決め動いています。東京に集まっているのは、22歳が圧倒的に多く、次に20歳であり、特に、女性の方が多くなっています。岩手県も含め、地方におい

古い価値観を捨て 行政も企業も 変わらなければ

ては、高齢者割合の増大によって社会保障を破綻させないということ、若者が残ってくれることこそが、未来の地元人口増に繋がっていくという統計的な視点からいうと、この20代前半の若者の流出をあまりに甘く見ており、極めて深刻に捉えるべきです。

―― 進学・就職期における特に女性をはじめとした若者の県外転出を防ぐため、行政はどのようなアプローチで取り組むことが必要とお考えですか。

天野　東京圏在住の東北地方から来ている20代女性を対象に調査を行ったところ、女性が東京圏に出てきた一番の理由は、「本当にやりがいがある仕事、やりたい仕事があるから」という回答でした。一方、地元に残ることは考えなかったのかと尋ねると、就職活動で地元の企業から回っていると回答した方ばかりでした。つまり、学生たちは地元と東京圏の企業を比較したうえで、東京圏で就職することを選択しています。

地方においては、採用活動において、男女を業種や職種で分けてしまうなどの、無意識の偏見、アンコンシャス・バイアスを持っている企業が多く見受けられます。例えば、男性でなければ仕事にならないと考えてしまうと、人口の半分の人材しか活かすつもりがないわけで、当然、人手不足という感覚になります。そうではなくて、人手が足りなければ、どんな人でも活躍できるように見直していかないといけません。昨今の人手不足を鑑みると、特に中小企業にとって若者は売り手市場ですので、自分たちのこれまでの経験に基づくアンコンシャス・バイアスを改め、むしろ企業側から「雇用して、お育てします」という姿勢が重要だと思います。

若者たちにとって自分の理想と異なる職場環境の企業は選ばれない時代になっています。地元の中小企業の方々は、地元から出ていった彼らから、いっぱい駄目出しをしてもらってほしいです。20代前半の若者からは、就職時の経験も交えつつ、私達だと気づけないような企業経営への提案がたくさん出てきます。彼らこそが素晴らしいコンサルタントなのです。就職で県外に出ていった彼らを逆に救世主としてとらえ、その声をどんどん企業の方々が聞いて、雇用改革に乗り出していってほしいですね。

行政の立場からは、企業の方々へなぜ岩手が人口減に苦しんでいるのかという真の実態を普及啓発していただきつつ、岩手で就職してくれる、結婚してくれる、子どもを産んでくれる若者たちの考えに合わせて応援してあげましょうねというような機運をオール岩手で作っていただきたいと思います。

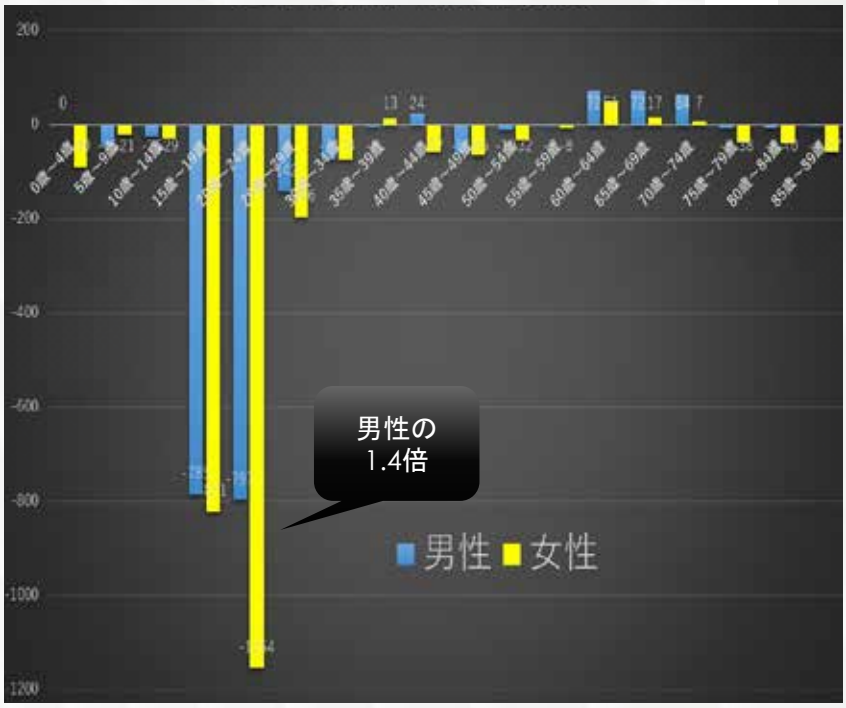
―― 岩手県で若者が活躍できるようにするために、まずはオール岩手で古い価値観など意識の改革や環境整備が大事になってくる

わけですね。

若者が活躍できる環境を整えるためには、まず若者の結婚や就業への価値観を理解する必要がありますが、女性だけでなく、男性も含めた若者たちの理想の家族観、就業観は、昔と比べて激変しています。

一方で、岩手県の人口を見ると、60代の人口が最も多くなっており、この多数派の中高年世代の声が大きくなることで中高年の価値観が優先される「シルバー民主主義」が進み、アンコンシャス・バイアスによって、若者の価値観への無理解が進みかねない社会となっています。

東京都は、40代の人口が一番多く、岩手県と比べて20年の差が出ています。つまり、家族の価値観も20年違うのですよね。岩手県の企業の経営者の方々には、まずはそこに気づいていただきたいですね。



2022年の岩手県　転入超過数（人）
総務省「住民基本台帳人口移動報告」より天野氏作成

―― 最後に、ウェルビーイングを実現するために必要なことなどについて、メッセージをお願いします。

天野　幸福度の測定において注意すべきは、岩手県のような若者人口減の状況下では「出ていく若者の気持ちは尊重しない地元価値観万歳測定」になりかねないということです。出ていった若者たちの気持ちも含めて、岩手に生まれた人々の気持ちを本当に大切にする岩手県になってくだされば と思います。そして、人口減少を止めるという観点からは、転出した方々に、どうすれば若者の流出が止まらない岩手を変えていけるかということを、どんどん聞いて取り入れていかなければなりません。その際には地元に残っている方の意識も調査して、両者の差を比較して「なぜ出ていかれてしまうのか」に向き合う勇気が必須だと思います。

「若者流出の原因」を認知し、雇用対策にフルに活かすことが大切です。その企業経営の新しい舵取りや変革を県が応援する。これが本当の少子化対策ではないでしょうか。岩手の空の下に生まれる人口を未来の人口へと繋ぎたいならば、せっかく岩手で生まれた若者が就職期に大量に消えていくという「人口減の負のループ」状態をまずは止めねばなりません。

そして、岩手県が岩手県であり続けるためには、やはり納税力がベースにあり、人口構造の健全化があっての幸福であるということを、人口問題の専門家として忘れないでいただきたいということを申し上げたいです。

インタビュアー
鈴木優香理
すずきゆかり

2008年岩手日報社入社。報道部、陸前高田支局、東京支社などを経て2023年4月、編集委員室記者。同年7月より同社の国内研修制度を利用して休職。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程の社会人学生として、災害時やコロナ禍における地方紙の社会的機能に関して研究している。

INTERVIEW.1

株式会社ヘラルボニー　代表取締役 Co-CEO
松田文登

株式会社ヘラルボニー　代表取締役 Co-CEO
松田崇弥

誰もが個性を発揮できる“異彩の発信地”いわてに

まつだ たかや　まつだ ふみと

1991年岩手県生まれ、双子の兄弟。兄·文登は東北学院大学共生社会経済学科卒業後、大手ゼネコンで被災地再建に従事。弟·崇弥は東北芸術工科大学企画構想学科卒業後、オレンジ·アンド·パートナーズのプランナーを経て独立。2018年、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ、株式会社ヘラルボニーを設立。2023年末には松田崇弥·文登がCo-CEOに就任。全国の福祉施設や作家とライセンス契約を結び、アートデータを軸に事業を展開。

「異彩を、放て。」というミッションを掲げ、福祉×アートで障がいに対する価値観を変容させようと活動する、福祉実験カンパニー「ヘラルボニー」。岩手出身で起業家である双子の兄弟、松田文登さんと崇弥さんに、誰もが幸せに生きられる社会の実現に向けて、彼らが挑戦していることを伺いました。

── はじめに、(株) ヘラルボニー設立の経緯について、教えてください。

文登　私達には知的障がいのある兄がおりますが、昔から「障がいのあるお兄さんがいてかわいそう」みたいにいろいろな人から言われていました。障がいがあると何もできないというイメージが世間にあって、そうではないのだと見せることで、皆さんの捉え方を変えたいと思っていました。

崇弥　知的障がいのある方々が繰り出す「彩り」とか「面白さ」というのを発露させるきっかけを作れないか。知的障がいのある方々のアートを、ライセンシング※して展開することができれば、資本主義経済に参画できるのではないか。そういうことを目指して、二人で会社を立ち上げ、5年間走ってきました。

文登　双子で会社を立ち上げるとなった時に、株式会社でやることにこだわったのは、障がいのある方々のアートの素晴らしさや素敵さをより良い形で社会に届けていくことが、そもそも非営利事業ではなく株式会社で挑戦できるということを示したいと思ったからです。あえて健常者という言葉を使うと、これまでの社会構造では、健常者が障がいのある方たちをある意味で支援しているという構造がありましたが、ヘラルボニーではこの構造が逆転している状態になります。一言で言えば、彼らの作品で食べさせてもらっているのです。これを社会に見せていくことで「障がい」=「欠落」という価値観を変えていきたいと考えています。

── ヘラルボニーは「異彩を、放て。」をミッションとして掲げていますが、この目指す姿を教えてください。

崇弥　例えば私の兄は、相撲の佐ノ山という力士が好きで、「お相撲さんの佐ノ山」という言葉を繰り返し発したりしているのですが、一緒に電車に乗っていると、すごい変な人だと見られて、指をさされて笑われたりしていました。そういうのが昔から悔しいと思っている中で、あえて人の目を気にせず発言できるというのは、実は才能かもしれないと思うことがあります。アートにおいても、私達だったらこの作品を描いたら売れると思えば、また同じような作風のものを描くとか、資本主義的なことを考えますが、彼らは本当の意味で自分が描きたいものを描いています。点を打ち続ける、円を描き続ける、皆さんならすぐ飽きてしまうようなことを、何時間も続けたいから続けます。私達側から「やって」ということではなく、自分の中の本能として

※ライセンシング…著作権等を保有している権利者が、第三者に対してその使用を有償で許諾すること。

やっていて、だからこそ作品に彼らの魂が宿っているように見え、そういう部分を社会に発露させていくことが、すごく意味のあることじゃないかと思いました。
そういう知的障がいを持つ方々の才能を社会に放(はな)っていくということを、新しい言葉の表現で可能性だと言い切りたくて、異なる彩り、異彩と表現しミッションを「異彩を、放て。」という言葉にしました。その中に、「普通じゃないということ、それは同時に可能性だと思う」という一文も入れて。だからできるし、だから描けるし、だから尊敬されるべき対象となっていくのだということを、力強く打ち出していけたらいいなと思って定めました。

―― 盛岡市にギャラリーを構えるなど、岩手に拠点を置いて発信を行っていただいていますが、お二人にとって「岩手から発信する」ことはどういう意味があるのでしょうか。

文登　基本的に私は岩手にいて、崇弥は東京にいるのですが、それぞれが出会う方々がヘラルボニーに関わってくれておりまして、二人で岩手と東京の両輪を回していけることが、ヘラルボニーの強みだと思っています。

崇弥　仮に50年後にヘラルボニーで１冊の本を作成するとなったときに、その年表に、岩手のギャラリーからスタートして、最初の福祉施設も岩手で、最初の百貨店も岩手で、年表の前半の部分は全て岩手から始まっている、そういうふうにできれば、すごく夢があるなっていうのは思います。今後、認知度を高めていって、岩手をヘラルボニーの発信地にできるよう、岩手の地を軸に、長い目線でいろいろ考えていけたらいいなと思っています。

―― 世界に目を向けた展開も構想されていると伺いましたが、今後の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。

崇弥　まだ決定してはいませんが、世界での事業展開も視野に入れています。

文登　世界で見ると、こういうモデルで本気で挑戦しているところがまだないので、世界の作家さんのエージェンシーになれる可能性があると考えています。国によって宗教も違いますし、障がいの捉え方も違いますが、やはり賃金という部分では非常に困っているところが多い中で、世界のマーケットで評価を受けていくことができれば、全世界で挑戦できる状態を作れると考えています。

崇弥　私達は福祉実験カンパニーと名乗っていますが、実験という言葉を使っているのも、福祉は失敗してはいけない、間違ってはい

けないみたいな空気感、閉塞感を打破していきたいと考えているからです。

── 著書において、「異彩を、放て。」のミッション達成率は「体感でまだ1％」とありましたが、その想いをお聞かせください。

崇弥　例えば、百貨店でクリスマスプレゼントを選ぶときに、ヘラルボニーも選択肢に入る世界観が数十年後にできていたら、相当なイノベーションだと思うのですよ。障がいがある人が描いているのだというより、純粋にかっこいいもの、美しいものとして、当たり前に買っているという、大きな認識の変化のパラダイムシフトを数十年先に作れていたら、かっこいいなと思っています。

文登　私はこの岩手で、福祉のインフラとして機能していく状態を作っていきたいですね。ヘラルボニーが、安心して預けられる、収入をお支払いできるという状態、そういうインフラとして機能していく、岩手という地でヘラルボニーはそういう存在でありたい。もちろんハードルはたくさんありますが、そのハードルを超える可能性があると思っています。

── 最後にお二人が考える幸福についてお聞かせください。

文登　最近中学生や高校生から、「岩手にヘラルボニーのような会社があって嬉しい」というような連絡が届きます。岩手の学生が就職を考えるときに、岩手で面白い挑戦ができる会社があるという状態を作っていけるかもしれないと思っています。また、私自身、学生時代の障がいへの偏見や差別が会社を起業しているきっかけになっています。ヘラルボニーは、一般企業のように収益を追求する会社というより、価値観を変えていきたいということを強く思っている会社なので、そういう多感な時期の子たちに対して、多様性のあり方だったり、ものの捉え方や考え方だったり、そういったものが少しでも伝わることによって、ヘラルボニーというフィルターが入る状態を作りたいなと考えています。多様な子たちがクラスにいると思うのですが、その接し方が変わるとか、親からの伝え方が変わると

か、何かそういう影響を及ぼせる存在でありたいなというのはすごく思いますね。

崇弥　先日も、新聞で県内の中学生がヘラルボニーのことを書いていただいた記事があったのですが、「多様性という言葉の本当の意味を知り、認められる雰囲気があったらいいな」という内容でした。このようにヘラルボニーが子どもたちに何か考えるきっかけを与えられているのはすごく嬉しいことですね。

INTERVIEW.2

芸人・タレント

天津木村

岩手に移住して知った、暮らしと地続きの幸福

てんしん　きむら

本名·木村卓寛。1976年、兵庫県生まれ。吉本興業所属タレント。1999年、向清太朗と漫才コンビ「天津」を結成。2021年4月、朝の情報番組のMC就任を機に盛岡市に移住。岩手県「いわて暮らしアンバサダー」、JA全農いわて「純情産地いわて応援団長」、山田町観光ふるさと大使、もりおか魅力発信大使等、幅広く活動中。

2021年に岩手に移住し、情報番組のMCとして自ら県内各地を飛び回っている天津木村さん。兵庫県出身で東京生活が長かった木村さんにとって、岩手での暮らしは初めてのことばかり。自然、食、多くの人々との出会いを通して、岩手で気づいた“本当の幸福”について語っていただきました。

── 岩手に移住した経緯を教えてください。

木村　岩手の朝のテレビ情報番組の MC をお願いしたいというお話をいただきまして、最初テレビ局の方からは、通いで土曜日の朝だけ来てくださいというお話でした。そのとき、私はちょうどタレントのヒロミさんの専属ドライバーをやらせていただいていましたが、ヒロミさんにそれを相談したら、「それは違うのではないかな」「パッと週 1 回行って、パッと帰ってということをしていては、岩手の人はお前のことを愛してくれないのではないか」というお話をいただきました。本当に、そうだなと思いまして、移住しようじゃないかと決意し、移住しました。

── 移住した木村さんから見た岩手の良さはどんなところですか。

木村　最初は、寒いところで、何もないところなのではと思っていました。家族もそうだったと思うのですが、こっちだから見つけられたこともたくさんあるし、何もないってことはなくて、妻も、本当に手の届くところにいろいろなものがあるっていうのがすごくいいと言っています。子どもたちも、やっぱり「食卓に並ぶ野菜は美味しいよね」と言います。子どもでもわかるのだと、それぐらい岩手の食べ物は明らかに違うものだと思います。

子どもたちは前までもっと厚着していたのに、最近は寒さに慣れてきて、だいぶ薄着で生活していて、たくましくなっているなと思っています。そういう自然を感じられるっていうのも、その魅力の一つですが、その辺がみんなで生活している感じに繋がっている気がすごくします。

前は東京で生活していたのですが、どこか地に足がついてない感じがすごくしていました。東京には遊びに行ける場所がいっぱいありましたけど、全然使いこなせていなかったです。岩手では自分の信頼というか、自分の尺度に合ったものを感じられるというところがあって、岩手に来て、例えば畑で育っている野菜を見て、田んぼで実っている稲穂を見て生活して、その野菜やお米が食卓に並ぶというところを感じられ、すごく心豊かになるというか、現実感があるというか、生活しているな、生きているなって感じることができる。ちょうどフィットする靴を履いているような感じですね。ブカブカじゃなくて、きつくもなく、履いていて気持ちいいなって思います。岩手に来る前に、岩手出身の人に岩手はどういうところですかと聞いたら、「人が温かくて、自然が近くて、食べ物が美味しいです」と言っていました。いや、地方というのは大体そうでしょって思っていたので

すが、その3つが思っていた以上にすごくて、心豊かに暮らすっていうことにおいて魅力だと思います。

── 木村さんは御自身のブログで、岩手の良さを発信していただいておりますが、その想いについて教えてください。

木村　僕は、昔から結構、人を褒めたい人間なのですけど、嘘はつきたくないっていうのがあって、その人を褒めるときに絶対嘘はつかないようにしようと思っています。日本人の苦手なところで、思ったことを口にして人を褒めたりするのが恥ずかしいみたいなところもあるのかなと思うのですが、僕はそこには別に何もないので、ちゃんと相手のいいところは伝えようって思ってずっとやってきたので、ブログもその延長だと思います。
岩手のいいところはたくさんあるので、それを皆さんに発信し、みんなにお知らせしたいからやっているっていう方が強いかもしれないですね。その発信力は少しずつついてきているのかなと思います。例えばブログでは、「木村さんが発信したコメントを見て、私もそう思うようになりました」「私も仕事帰りにどこどこに立ち寄ってきました」というような返しもあるので、より頑張ろうと思えるというのはありますね。
僕はそうやって、岩手の方によくしていただいているので、恩返しでもありませんが、自分のことをいろいろ発信しながら、それで喜んでくださる人がいたらいいのかなというところはあります。

── 木村さんは「住めば都ではなく、住むからには都」と御発言されることがありますが、この言葉に込められている考えについて教えてください。

木村　「住めば都」という言葉は前からありましたけど、自分が生活しやすい、そこを都だと思えるようにと、すごく受動的だなって思っています。
自分のためなのですが、せっかく住んでいるのだから、楽しい方がいいじゃないか、あえて、いばらの道を行く必要はないかなというところで、せっかく岩手に来させてもらって、岩手という新しいところで、いろいろな知らないことがあればそれを知っていって、毎日喜びを感じながら生活して、より良いまちになっていたら、自分本位な考えですが、自分が絶対生活しやすくなります。それで、結果的に周りの人も幸福になれたらいいかなと思っています。
損と得で分けると、損はしたくないなって思っています。自分の今までの生き方の中で、なんで自分から損を取りに行くの、というときがあって、得を取った方が絶対いいじゃないですか。せっかくだから、全部楽しんでその得を取りにいっているということですね。

── 若者たちが就職等を機に、岩手から離れていくことについてどう感じていますか。

木村　外にいるって大事だなって思いますし、やりたいことがあるのであればそっちに行ったらとも思います。その中で、できるのなら、すごい技術を身に付けて、見聞を

広げて帰ってきてねと思います。
働く場所が少ないから、仕方がないと思うのですけど、さっきの「住めば都」「住むからには都」ではないですが、受動的な部分もあるのかなっていう気がします。ちょっと努力してから行ってもらえたら、なお嬉しいかな。こっちは何もないからって思ったら、そこで止まってしまうので、何かを作る努力をするのか、仲間内で何かことを起こすのかという気持ちを、一瞬でも持ってもらえるだけで変わるのかなと思います。
僕は岩手県が大好きで、真面目なところが一番好きなのですけど、そこに遊び心が加わったら最強なのにと思っています。特に若い人たちが遊び心をちょっとどこかに持っていただいたら、何かしら楽しみ方が変わるのかな。
新幹線があるので出ていきやすいけど、帰ってきやすいかなというところもあります。ブログのコメントで、「私は県外に嫁いだ者です」「仕事で出ちゃった者です」とよく言われます。僕のブログの写真を見てくれて、「岩手県に帰りたいです」「やっぱり素敵この景色、久しぶりに見たいです」というコメントが来ますが、絶対そう思うのですよ。だって、素晴らしいから。自然の美しさとか、食べ物の美味しさとか、懐かしさとか、そう思ってもらっているだけで、そっちに何か熱い気持ちがあるだけで、こっちにも何か伝わるものがある気がします。

── 天津木村さんが考える幸福とは何か、教えてください。

木村　岩手に来て幸福というものへの概念がちょっと変わったかなと思います。それまで、やはり物質的なものをどこかで求めていたというようなところがあって、あれ欲しい、これ買いたい、これだけお金欲しいなどと思っていました。
いろいろ調べたら、世界幸福度ランキングみたいなものがあって、大体北欧の寒い国が上位になっていて、もちろん社会保障がしっかりしていることもあるでしょうけれど、もう寒いところですから、あるもので満足しようよというような、自分を過大評価しないみたいなものが、ベースにあるらしくて。だから物が溢れているわけじゃないけれど、これだけ生活できたらもういいな、これで幸せだって思っている人たちなのだそうです。
岩手県でもよく何もないとおっしゃる人はいますけど、僕は、いやあるし、ないことはないと思うのです。つまり、そこで満足できているかどうかが大きいのかな。何かを求めすぎたらよくないかなと思ったりするところがあって、あるものはあるし。僕はコストコが欲しいのですけど、なくてもやれるのですよね。
それを欲しいと思ったら、幸福度がちょっと下がるかなと。どこで自分の気持ちに折り合いをつけて、ちゃんと満足できるかどうか。その元となるものは岩手県にはもうめちゃくちゃある。美味しい食べ物があって、美しい自然があって、あったかい人たちがいる。それだけでいいじゃないかなと思うところが、こっちに来てから、感じるようになった。それが、幸福というものなのかなと思います。

いわて県民計画（2019 ～ 2028）　第2期アクションプランの概要

いわて県民計画（2019 ～ 2028）の理念

- 県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること
- 地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと
- 社会的に弱い立場にある方々が孤立することのないように、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の観点に立った取組を進めること

いわて県民計画（2019 ～ 2028）の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

いわて県民計画（2019 ～ 2028）の構成

長期ビジョン　長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするものです。［計画期間：2019年度から2028年度までの10年間］

アクションプラン　長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方策を盛り込むものです。

第2期アクションプランの計画期間等

計画期間　令和５年度から令和８年度までの４年間

構　　成　長期ビジョンの内容及びこれまでの構成等を踏まえ、
「復興推進プラン」「政策推進プラン」「地域振興プラン」「行政経営プラン」で構成

第2期政策推進プランの重点事項

- 第２期政策推進プランにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の2050年度実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化します。
- 第１期政策推進プランの成果と課題、市町村長との意見交換、関係団体等からの御意見・御提言を踏まえ、第２期政策推進プランでは、人口減少対策を最優先で取り組むべきものと位置付けています。
- ４つの重点事項を掲げ、10の政策分野や11のプロジェクトなど、県民計画に基づく施策を着実に推進します。

【重点事項1】　性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

○　性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めるとともに、産業政策を総合的に展開し一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めながら、結婚、妊娠・出産、子育てへの支援などの自然減対策や、若年層の県内就職、移住・定住の促進などの社会減対策を強化します。

○　市町村や関係団体等と連携し、県民運動等による社会全体の機運醸成を行い、安心して子どもを生み育てられる環境の充実にオール岩手で取り組んでいきます。

【重点事項２】　ＧＸ（グリーン・トランスフォーメーション）を推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

○　再生可能エネルギーの導入促進、森林整備や県産木材の利用促進など森林資源の循環利用、省エネ住宅の普及を進めるなど、地域経済と環境に好循環をもたらす持続可能な新しい成長を目指しながら、誰もが住みたいと思えるふるさとを次世代に引き継いでいきます。

○　県民、事業者、行政が一体となり、温室効果ガス排出削減目標の達成に向け県民運動を展開します。

【重点事項３】　ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）を推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

○　全ての県民がＤＸの恩恵を享受できるよう、「行政のＤＸ」「産業のＤＸ」「社会・暮らしのＤＸ」「ＤＸを支える基盤整備」の４つの取組方針のもと、あらゆる産業のＤＸの促進、県民生活の利便性の向上、情報通信インフラの整備、市町村への支援を進めます。

【重点事項４】　災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

○　東日本大震災津波や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します。

第2部

「希望郷いわて」の今

岩手県 一関市 厳美渓

第2部の概要

第２部では、県民の幸福感の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。

県民の幸福感の現状については、毎年実施している県民意識調査(注1)の調査結果の中から、「主観的幸福感」、「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感」の結果を掲載しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、30ページ以降、「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「いわて県民計画」という。)に掲げる10の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。

なお、10の政策分野の概要は、28ページをご覧ください。

※ 30ページ以降の「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」は、令和５年11月に公表した「政策評価レポート2023」を基に作成しているため、記載内容は公表当時のものです。「県民の幸福度向上に向けた県の取組や成果」の見方は29ページをご覧ください。

県民の幸福感の現状

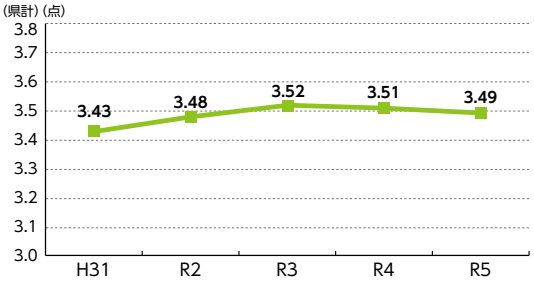
主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で把握したものです。

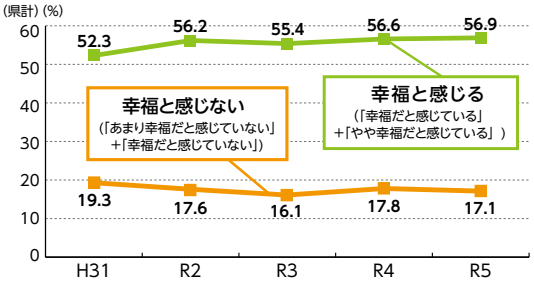
その結果、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの５段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.49点となりました。

また、幸福と感じている人の割合は、基準年(H31)より上昇しています。

主観的幸福感の平均値(県計)の推移〔点数〕



主観的幸福感(県計)の推移〔割合〕



幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択していただき、把握したものです。

その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。

分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、10の政策分野に関する下表の12の項目に対する実感を回答いただいたものです。

いわて県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、２分野で上昇、４分野で横ばい、６分野で低下が見られました。

実感の平均値が高い順に、「自然のゆたかさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっており、「自然のゆたかさ」の実感は、４点を超えています。

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31（基準年）	R5（当該年）	H31とR5の差
Ⅰ 健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.18	↑ (0.17)
	(2)余暇の充実	3.05	2.93	↓(△0.11)
Ⅱ 家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.91	↑ (0.07)
	(4)子育て	3.08	3.06	-(△0.02)
Ⅲ 教育	(5)子どもの教育	3.10	3.14	- (0.03)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.29	-(△0.04)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.07	↓(△0.28)
Ⅴ 安全	(8)地域の安全	3.82	3.69	↓(△0.13)
Ⅵ 仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.39	↓(△0.15)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.53	↓(△0.11)
Ⅶ 歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.23	↓(△0.06)
Ⅷ 自然環境	(12)自然のゆたかさ	4.21	4.21	- (0.00)

(注) ①(　)は基準年との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。
② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高めていくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標（いわて幸福関連指標）の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感(注2)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

なお、令和５年度は第２期政策推進プラン（計画期間：令和５年度～令和８年度）の初年度に当たり、第１期政策推進プランとは具体的推進方策や具体的推進方策指標等が異なるため、定性的に評価しています。

（注1）県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。

調査の概要は次のとおりです。

①調査対象　県内に居住する 18 歳以上の個人
②対象者数　5,000 人
③抽出方法　選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
④調査方法　設問票によるアンケート調査（郵送法）
⑤調査時期　毎年1～2月（令和5年は1月～3月）
⑥回 収 率　令和5年調査は 58.8%
(2,942 人 /5,000 人)

（注2）政策分野ごとの実感（分野別実感）について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の評価や政策立案に活用しています。

なお、県民の幸福を下支えする共通土台として設定した「Ⅸ社会基盤」、「Ⅹ参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと
一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成する県民・企業・NPO・市町村など様々な主体とともに、「10 の政策分野」の取組を展開していきます。

I 健康・余暇分野 P30～

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

II 家族・子育て分野 P33～

家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

III 教育分野 P36～

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

IV 居住環境・コミュニティ分野 P39～

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

V 安全分野 P42～

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

VI 仕事・収入分野 P45～

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

VII 歴史・文化分野 P48～

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

VIII 自然環境分野 P50～

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

IX 社会基盤分野 P53～

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

X 参画分野 P55～

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

Ⅶ 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、
愛着や誇りを育んでいる岩手

実感　「歴史・文化への誇り」は、低下しました。

指標　いわて幸福関連指標3指標のうち、2指標が現状値より上昇、1指標が横ばいとなっています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

いわての3つの世界遺産パネル巡回展

県立平泉世界遺産ガイダンスセンター

教員現地研修会

世界遺産出前授業

岩手県民俗芸能フェスティバル

県指定文化財の新規指定

主な今後の取組方向

○ 世界遺産等の来訪者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等により伸び悩んだことから、SNSを活用したイベント情報等の発信に取り組むほか、県内外におけるパネル巡回展やブース出展、教育旅行の誘致などのプロモーション活動により、人的・文化的交流に取り組みます。

○ 3つの世界遺産の保存と活用を進めるため、保存管理計画に基づく適切な保存管理や「平泉の文化遺産」の世界遺産への拡張登録に向けた取組、学校教育活動を通じた意識の醸成を推進します。

令和５年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考 計画目標値(R8)	参考 R5目標値	参考 全国順位(東北順位) R3	参考 全国順位(東北順位) R4	参考 全国順位(東北順位) 比較
62	世界遺産等の来訪者数	千人	417	693	↗	991	712			
63	国、県指定文化財件数	件	574	579	↗	589	584	31位(30位)	31位(30位)	→(→)
64	民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	393	393	→	393	393	—	—	—

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	1,214	1,296	—
17	持ち家比率	%	※ 69.9	—	5年ごとの公表

［県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目（歴史・文化への誇り）	実感平均値 基準年[H31]	実績値[R5]	比較
地域の歴史や文化に誇りを感じますか	3.28	3.23	低 下

歴史・文化分野を取り巻く状況

● 県と一関市、奥州市、平泉町は、令和5年8月、世界遺産「平泉」の構成資産及び関連資産を「ひらいずみ遺産」として位置付けることとしました。

● 文化庁や専門家と意見交換を行いながら、世界遺産拡張登録推薦に向けた取組を進めています。また、「平泉の文化遺産」関連資産についても、今後の世界遺産拡張登録に向けて、関係市町において、遺跡の調査等が継続して行われています。

● 令和5年4月現在の国内の世界遺産登録件数は25件であり、そのうち本県では3件が登録され、奈良県、鹿児島県と並び、国内最多の登録件数となっています。

第2部　「希望郷いわて」の今　51

●政策分野名
10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●実感
幸福に関連する分野の実感の動向を基準年（平成31年）と比較し記載しています。詳しくは［県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］をご覧ください。

●指標
いわて県民計画長期ビジョンに掲載しているいわて幸福関連指標の動向を中心に記載しています。詳しくは［いわて幸福関連指標の達成状況］をご覧ください。

●取組状況
政策分野の取組方向を実現するための令和5年度の県の取組状況を記載しています。

●主な今後の取組方向
政策分野の取組方向を実現するための政策推進上の今後の取組方向を記載しています。

●いわて幸福関連指標の動向
いわて幸福関連指標の目標値や令和4年度の値などを記載しています。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値や順位を測定できない指標は「―」と表示しています。
※R4の値（順位）とR3を比較して
・向上している場合 ↗
・変動がない場合 →
・低下している場合 ↘
と表示しています。

●全国順位（東北順位）
いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を現状値（令和3年度）と比較しています。

●参考指標
いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

●県民意識調査の結果
令和5年県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。
【分野別実感の平均値の算出方法】
各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したものです。
【比較】
分野別実感の平均値について、基準年（H31）との比較において、次の結果であったものを記載しています。
上　昇：統計学による評価（t検定、5%水準）で有意な変化が確認でき、上昇した場合。
横ばい：統計学による評価（t検定、5%水準）で有意な変化が確認できなかったもの。
低　下：統計学による評価（t検定、5%水準）で有意な変化が確認でき、低下した場合。

●政策分野を取り巻く状況
関連する社会経済情勢など当該政策分野を取り巻く状況を記載しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

Ⅰ 健康・余暇

**健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手**

実感 「心身の健康」は上昇したものの、「余暇の充実」は低下しました。

指標 いわて幸福関連指標 10 指標のうち、４指標が現状値より上昇、６指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

いわてピンクリボンスフェスタ

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるため、関係機関と連携して啓発に取り組んでいます。

いわて医学奨学生セミナー2023

現役医学奨学生の有志による実行委員が主体となり、医学奨学生と先輩医師との交流などを目的としたセミナーを開催しました。

認知症セミナー

認知症の本人やその家族の視点から認知症への理解を深めるためのセミナーを開催しました。

岩手芸術祭総合フェスティバル

県民の芸術文化活動の祭典である岩手芸術祭の開催にあわせて、オンライン配信を取り入れた「岩手芸術祭総合フェスティバル」を開催しました。

いわてアール・ブリュット巡回展2023

県内のアール・ブリュット作品を広く周知し、その魅力を発信するため、「いわてアール・ブリュット巡回展 2023」を開催しました。

震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」

県立図書館では、東日本大震災津波からの復興や防災を含む今日的な課題について、児童生徒やグループによる学び合いの場を開設しました。

主な今後の取組方向

○ 令和4年の10万人当たりの自殺者数は21.3人と前年の16.2人から増加していることから、高齢者や働き盛り世代などの対象に応じた重点的な対策や、相談支援体制の充実強化など、官民一体となった自殺対策を推進します。

○ 本県の医師数は着実に増加しているものの、全国平均との差は拡大していることから、奨学金による医師養成や即戦力医師の招へい、県立病院ネットワークを活用した臨床研修病院群による受入れ体制の充実、医師に対する育児支援等により、医師確保の取組を推進します。

○ 看護職員の不足が見込まれるため、看護学生の地元就職や県外就職者のU・Iターンの働きかけ等、看護職員の確保に取り組みます。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
1	健康寿命〔平均自立期間〕	年	男性 ② 80.03	③ 79.95	↘	⑦ 81.00	④ 80.42	—	—	—
2			女性 ② 84.59	③ 84.55	↘	⑦ 85.41	④ 84.92	—	—	—
3	がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数〔10万人当たり〕	人	男性 ② 283.4	③ 279.2	↗	⑦ 245.8	④ 266.6	—	—	—
4			女性 ② 154.5	③ 150.8	↗	⑦ 120.9	④ 131.9	—	—	—
5	自殺者数〔10万人当たり〕	人	16.2	21.3	↘	14.6	15.0	22位 (1位)	46位 (5位)	↘ (↘)
6	75歳以上85歳未満高齢者の要介護認定率	%	12.3	16.8	↘	11.3	11.9	—	—	—
7	訪問診療（歯科含む）・看護を受けた患者数〔10万人当たり〕	人	② 6,508	③ 6,782	↗	⑦ 7,210	④ 6,781	—	—	—
8	余暇時間〔一日当たり〕※1	分	372	383	↗	382	382	—	—	—
9	県内の公立文化施設における催事数※2	件	–	1,253	—	1,471	1,223	—	—	—
10	スポーツ実施率	%	② 65.4	③ 64.7	↘	⑦ 70.0	④ 67.2	—	—	—
11	生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	46.1	36.9	↘	50.0	47.0	—	—	—

※1　休日を含む1週間の平均
※2　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な14施設の催事数

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(R3)	R4の値	備考
1	健康寿命〔日常生活に制限のない期間〕	年	男性 ① 71.39	—	3年ごとの公表
2			女性 ① 74.69	—	3年ごとの公表
3	喫煙率	%	① 20.9	—	3年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況） ］

調査項目
【心身の健康】
こころやからだが健康だと感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.00	3.18	上昇

調査項目
【余暇の充実】
余暇が充実していると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.05	2.93	低下

健康・余暇分野を取り巻く状況

- 「令和4年人口動態統計（厚生労働省）」によると、本県の脳血管疾患の死亡数は 1,938 人であり、前年に比べて 76 人増加し、人口 10 万人当たりの脳血管疾患死亡数を表す粗死亡率は 165.2（対前年 8.6 増）となり、全国ワースト2位となっています。

  また、本県の自殺者数は 250 人であり、前年に比べて 57人増加し、人口 10 万人当たりの自殺者数は 21.3（対前年 5.1 増）となり、全国ワースト2位となっています。

  警察庁統計によると、令和4年の全国の年齢階級別の自殺死亡者数は、50 歳代において大きく増加しているほか、小中高生の自殺者数が 514 人と過去最多となっていますが、本県は、40 歳代の働き盛り世代や高齢者の自殺者が多い傾向にあります。
- 厚生労働省が全国の医師数の多寡を比較するために、令和5年4月に示した「医師偏在指標（令和2年 12 月調査実績）」によると、本県は全国で最も医師が少ない県となっています。
- 令和6年度から医師に対する時間外労働の上限規制（960 時間）の運用が開始されます。
- 国では、医師の働き方改革による地域医療への影響について、定期的に実態調査を行い、詳細な分析や必要な対応について検討することとしています。

Ⅱ 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手

実感 「家族関係」は上昇したものの、「子育て」は横ばいでした。

指標 いわて幸福関連指標７指標のうち、３指標が現状値より上昇、３指標が下降、１指標が横ばいとなっています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

「i-サポ」会員登録料無料キャンペーン

“いきいき岩手”結婚サポートセンターでは、８～10月の間、入会登録料無料キャンペーンを実施しました。

子育て世帯支援

第２子以降の３歳未満児を対象とした保育料の無償化や在宅育児支援金の支給など子育て世帯の経済的負担軽減に取り組んでいます。

いわてで生み育てる県民運動

地域社会全体で子育てする方々や子どもを温かく見守る環境づくりに取り組む機運を醸成するため、「いわてで生み育てる県民運動」を推進しています。

県立野外活動センターにおける体験活動

子どもたちの体験活動の充実のため、県立野外活動センターでは、自然に親しみ、興味・関心を高める事業を実施しました。

いわて働き方改革AWARD2023

「いわて働き方改革推進運動」を全県的に推進するため、「いわて働き方改革 AWARD2023」を開催し、優良企業等の表彰、受賞企業による事例発表を行いました。

犬・猫の譲渡会

保健所が収容した動物を１頭でも多く新しい飼い主へ譲渡するため、動物愛護団体等と連携し譲渡会を開催しました。

主な今後の取組方向

○ 令和４年の合計特殊出生率は 1.21 と前年の 1.30 から減少していることから、若い世代のライフデザイン形成に対する支援、結婚サポートセンター「ｉ－サポ」の新規会員の確保やマッチング支援の強化、市町村や企業等と連携した出会いの場の創出などに取り組みます。

○ 子育て家庭の負担軽減のため、第２子以降の３歳児未満に対する保育料の無償化、在宅育児支援に取り組みます。

○ 「いわてで働こう推進協議会」を核として、デジタル技術等を活用した企業の生産性向上を支援し、長時間労働の是正などの働き方改革を推進するとともに、育児休業・介護休業の取得促進、テレワークをはじめとした柔軟で多様な働き方の取組を促進します。

令和５年度の評価結果

［ いわて幸福関連指標の動向 ］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
12	合計特殊出生率		1.30	1.21	↘	1.58	1.35	36位(4位)	39位(4位)	↘(➡)
13	待機児童数〔4月1日時点〕	人	12	35	↘	0	0	19位(4位)	34位(5位)	↘(↘)
14	地域の行事に参加している生徒の割合〔中学生〕	%	62.9	55.3	↘	64.0	64.0	3位(1位)	5位(1位)	↘(➡)
15	総実労働時間〔年間〕	時間	1,761.6	1,748.4	↗	1,633.0	1,710.1	44位(3位)	45位(4位)	↘(↘)
16	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※	%	39.2	39.7	↗	50.0	42.5	—	—	—
17	犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 100	100	➡	100	100	—	—	—
18			猫 98.8	100	↗	100	99.1	—	—	—

※　女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(R3)	R4の値	備考
4	共働き男性の家事時間	分	125	117	—
5	共働き女性の家事時間	分	319	295	—
6	50歳時未婚率	%	男性 ② 29.61	—	5年ごとの公表
7			女性 ② 16.70	—	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目【家族関係】家族と良い関係がとれていると感じますか	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R5]	比較
	3.84	3.91	上昇

調査項目【子育て】子育てがしやすいと感じますか	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R5]	比較
	3.08	3.06	横ばい

家族・子育て分野を取り巻く状況

- 令和４年の合計特殊出生率は、全国が 1.26（前年比 -0.04）、本県は 1.21（前年比 -0.09）で、全国 39 位となっています。
- 仕事と子育ての両立支援などに取り組む企業等を認証する「いわて子育てにやさしい企業等」の認証数は、令和５年７月末現在で 395 事業者となっています。
- 令和４年４月から、一般事業主行動計画の策定・届出及び情報公表の義務化の範囲が拡大されるとともに、改正育児・介護休業法の段階的施行により男女とも仕事と育児を両立できるよう、産後パパ育休制度の創設や雇用環境整備等が義務化されています。
- 本県においては、令和４年の１人当たり年間総実労働時間（５人以上事業所）が、1,748.4 時間と、前年より 13.2 時間減少したものの、依然として全国平均 1,633.2 時間を 115.2 時間上回っています。
- 産学官金労の団体で構成する「いわてで働こう推進協議会」において、令和５年度は、①県内定着、②Ｕ・Ｉターン、③雇用労働環境、④起業・事業承継の４つの柱を定め、オール岩手で若者や女性等の県内就職及び創業支援をしています。

Ⅲ 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手

実感 「子どもの教育」は、横ばいでした。

指標 いわて幸福関連指標 18 指標のうち、7 指標が現状値より上昇、11 指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

ICTを活用した学習活動

1人1台端末を「新たな文房具」として活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を推進しました。

いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業

地域との協働により、地域の魅力発信や活性化など、地域課題の解決に向けた探究活動を実施しました。

いわての復興教育

県立釜石高等学校の有志生徒「夢団」と、インドネシア・アチェ第一高等学校の生徒が、震災伝承の取組を交流しました。

高校生のものづくり企業見学会

高校等卒業後の進路選択の幅を広げ、県内就職を促進するため、普段見ることのない製造現場の見学会を実施しました。

いわての地域国際化人材育成事業 海外派遣研修（北米コース）

新型コロナウイルスの影響により中断していた県内高校生の海外派遣研修を再開し、国際機関や学校訪問のほか、ホームステイや語学研修を行いました。

岩手県立大学 開学25周年記念式典

岩手県立大学は令和5年に開学25周年を迎え、記念式典を開催しました。式典では、学生によるアトラクション発表のほか、三笠宮彬子女王殿下による記念講演が行われました。

主な今後の取組方向

○ 首都圏をはじめ、全国的な有効求人倍率の上昇に伴い、県外企業からの求人が増加し、県内大学等卒業者の県内就職率が伸び悩んでいることから、産学官で構成される「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」と連携した県内企業の魅力を伝える取組を強化するなど、県内大学等卒業者の県内企業への就職を促進します。

○ いじめの認知件数や不登校児童生徒数は増加傾向にあることから、いじめや不登校の未然防止、早期発見・適切な対処に取り組むため、組織的な指導体制やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携した教育相談体制の充実、多様な教育機会の確保に取り組みます。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考 計画目標値(R8)	参考 R5目標値	参考 全国順位(東北順位) R3	参考 全国順位(東北順位) R4	参考 全国順位(東北順位) 比較
19	意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 82.5	81.2	↘	82.5	82.5	—	—	—
20			中 85.4	83.2	↘	85.4	85.4	—	—	—
21	授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 83.0	82.6	↘	83.0	83.0	—	—	—
22			中 83.5	83.3	↘	83.5	83.5	—	—	—
23	人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 68	66	↘	70	70	—	—	—
24			中 67	68	↗	68	68	—	—	—
25			高 62	65	↗	70	66	—	—	—
26	自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 76.4	77.3	↗	80.0	78.0	—	—	—
27			中 76.2	78.1	↗	79.0	78.5	—	—	—
28	体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男子 68.9	65.0	↘	70.0	70.0	10位 (2位)	15位 (2位)	↘ (➡)
29			小 女子 79.1	77.1	↘	80.0	80.0	8位 (2位)	9位 (2位)	↘ (➡)
30			中 男子 74.8	73.6	↘	75.0	75.0	5位 (2位)	4位 (2位)	↗ (➡)
31			中 女子 88.8	88.4	↘	90.0	90.0	7位 (1位)	3位 (1位)	↗ (➡)
32	特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	96.0	96.6	↗	96.0	96.0	—	—	—

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
33	高卒者の県内就職率	%	74.1	73.6	↘	84.5	84.5	33位(5位)	—	—
34	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 82.1	82.6	↗	84.0	83.0	—	—	—
35			中 72.8	73.3	↗	76.0	73.8	—	—	—
36	県内大学等卒業者の県内就職率	%	47.0	42.1	↘	50.0	48.5	(1位)	(2位)	(↘)

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(R3)	R4の値	備考
8	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 50	46	—
9			小 算数 42	52	—
10			中 国語 37	40	—
11			中 数学 57	56	—
12	不登校児童生徒数〔千人当たり〕	人	小 8.4	11.3	—
13			中 39.6	46.5	—
14			高 19.8	20.1	—

［ 県民意識調査の結果(分野別実感の状況) ］

調査項目
【子どもの教育】
子どものためになる教育が行われていると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.10	3.14	横ばい

教育分野を取り巻く状況

- いじめ防止対策推進法の施行を契機として、県内の学校におけるいじめの認知件数は、令和3年度 8,039 件から令和4年度 8,256 件と増加しています。
- 令和5年3月卒の高卒者の県内就職率は 73.6% となり、過去最高となった令和4年3月卒の高卒者の 74.1% を 0.5 ポイント下回りましたが、過去3番目の高い水準を維持しています。

Ⅳ 居住環境・コミュニティ

**不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手**

実感 「住まいの快適さ」は横ばい、「地域社会とのつながり」は低下しました。

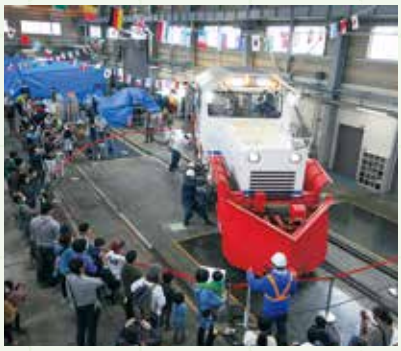
指標 いわて幸福関連指標７指標のうち、６指標が現状値より上昇、１指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

省エネルギー住宅技術普及促進支援セミナー

脱炭素社会の実現に向けて、県内の建築士等の省エネ技術の向上を図ることを目的としたセミナー（断熱施工研修）を開催しました。



三陸鉄道車両基地まつり

公共交通の利用促進を図るため、交通事業者が実施するイベントの開催を支援しました。

地域おこし協力隊等初任者研修会

着任後概ね１年未満の地域おこし協力隊員等を対象に、基本講座や先輩協力隊員の活動紹介等の研修を行いました。

いわておかえりプロジェクト

県外で働く若者等にUターンの意識を高めてもらうため、お盆と年末年始の帰省時期に「いわておかえりプロジェクト」を実施しました。

きたぎんボールパーク（いわて盛岡ボールパーク）

スポーツ施設として全国で初めて、県と市が共同で整備した「きたぎんボールパーク」が令和５年４月１日にオープンしました。

いわてお試し居住体験事業

本県への移住・定住の促進を図るとともに、県営住宅ストックの有効活用を進めるため、県営住宅の空き住戸に家電等を整備し、居住機会を提供しました。

主な今後の取組方向

○ 県外からの移住･定住者数は増加している一方、再び東京都の転入超過幅が拡大し、一層の移住･定住を促進する必要があることから、市町村等と連携した情報発信、移住体験等の取組や移住希望者の多様なニーズに対応するための相談機能を強化するとともに、地域で移住者を受け入れるためのサポート体制の整備に取り組みます。

○ 人口減少や高齢化の進行、新型コロナウイルス感染症の影響等により、地縁的な活動への参加割合が低下していることから、市町村等と連携し、人材育成・地域運営組織の形成促進等に取り組みます。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
37	県外からの移住・定住者数	人	1,584	1,647	↗	2,500	1,830	—	—	—
38	汚水処理人口普及率	%	84.4	84.9	↗	91.1	87.9	35位(5位)	35位(5位)	➡(➡)
39	三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	10.2	11.0	↗	16.5	14.3	—	—	—
40	地縁的な活動への参加割合	%	33.3	32.6	↘	44.5	36.0	—	—	—
41	在留外国人数〔10万人当たり〕	人	597.0	703.9	↗	849.2	693.0	45位(4位)	45位(4位)	➡(➡)
42	文化・スポーツ施設の入場者数(文化施設入場者数)※1	千人	② 33	③ 77	↗	⑦ 185	④ 126	—	—	—
43	文化・スポーツ施設の入場者数(スポーツ施設入場者数)※2	万人	486	597	↗	757	594	—	—	—

※1　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数
※2　県及び県内市町村の公立スポーツ･レクリエーション施設入場者数

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(R3)	R4の値	備考
16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	1,214	1,296	—
17	持ち家比率	%	㉚ 69.9	—	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目（住まいの快適さ）住まいに快適さを感じますか	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R5]	比較
	3.34	3.29	横ばい

調査項目（地域社会とのつながり）地域社会とのつながりを感じますか	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R5]	比較
	3.35	3.07	低下

居住環境・コミュニティ分野を取り巻く状況

- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類に移行となり、社会経済活動が正常化することに伴う観光需要の回復、IC カードの導入拡大による公共交通利用者の利便性の向上など、利用者の増加につながる環境の変化も生じています。
- 市町村においては、住民に最も近い基礎自治体として地域コミュニティの育成や支援に取り組んでおり、各種助成制度の活用や「地域おこし協力隊員」の活動などにより、地域内の自発的な活性化と担い手の育成支援の取組が進められています。
- 移住相談窓口等において受け付けた県・市町村を合わせた相談件数（岩手県調査）は、地方移住への関心の高まりもあり、令和３年度の 5,349 件から令和４年度は 6,342 件と大幅に増加しています。

Ⅴ 安全

**災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手**

実感　「地域の安全」は、低下しました。

指標　いわて幸福関連指標４指標のうち、２指標が現状値より上昇、２指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

岩手県地震・津波減災対策検討会議報告書の公表

津波避難に関し市町村に共通する課題等について、減災対策を盛り込んだ報告書をとりまとめ、公表しました。

岩手県総合防災訓練における避難訓練

市町と共同で岩手県総合防災訓練を実施し、火山災害を想定した県民参加の避難訓練を行いました。

地域防災サポーターの派遣

防災に関する資格や経験を持つ地域防災サポーターを自治体等に派遣し、防災に関する普及啓発を行いました。

個別避難計画作成に係る市町村担当者研修会

高齢者や障がい者などの避難支援が迅速かつ的確に行われるよう、市町村の担当者を対象に研修会を開催しました。

鍵かけ推進モデル事業

鍵かけ意識の醸成に向け、モデル地区、モデル校等を指定し、地域ぐるみで鍵かけ意識の向上に取り組みました。

参加・体験・実践型の交通安全講習会

交通安全教育機材を使用し、県内各地で参加・体験・実践型の交通安全講習会を実施しました。

主な今後の取組方向

○　人口減少や高齢化が進む中、日本海溝・千島海溝沿い巨大地震など今後起こり得る大規模自然災害に備える必要があることから、県民の防災意識の向上、地域防災サポーターの派遣等による住民同士が助け合える体制の構築・強化、消防団員の確保、個別避難計画の作成支援、総合

防災訓練の実施など、国・市町村等と連携しながら、自助・共助・公助に基づく総合的な防災・減災対策を推進します。

○ 避難所対応など、防災関係の業務においてはアナログな仕組みが多く、デジタル技術を活用していく必要があることから、災害対応力の強化につながるデジタル技術活用の調査・研究に取り組みます。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
44	自主防災組織の組織率	%	88.5	89.0	↗	91.8	89.8	28位(2位)	—	—
45	刑法犯認知件数	件	2,507	2,655	↘	2,300	2,560	2位(2位)	2位(2位)	➡(➡)
46	交通事故発生件数〔千人当たり〕	件	1.29	1.28	↗	1.10	1.23	4位(1位)	6位(2位)	↘(↘)
47	食中毒の発生人数〔10万人当たり〕	人	1.3	1.4	↘	7.3	7.3	4位(2位)	5位(1位)	↘(↗)
48	新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数※	機関	—	—	—	60	27	—	—	—

※ 入院受入医療機関と外来診療医療機関の計

［県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
（地域の安全）
お住まいの地域は安全だと感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.82	3.69	低下

安全分野を取り巻く状況

- 国の中央防災会議幹事会では、令和5年5月に「日本海溝・千島海溝地震型地震における具体的な応急対策活動に関する計画」を決定し、発災時には、国の緊急災害対策本部の調整により、被害の全容把握、被災地からの要請を待たず直ちに行動することとしています。
- 本県最大クラスの津波浸水想定や地震・津波被害想定調査等を踏まえ、令和5年8月に「岩手県地震・津波減災対策検討会議報告書」を取りまとめ、避難行動要支援者の支援、自動車避難のルール、津波避難ビルの指定の留意点等を公表しました。
- 令和3年度に実施した岩手県自主防災組織実態調査によると、防災に関する研修や訓練を行っている自主防災組織の割合が 76.8%、防災用資機材などを備蓄・保管している自主防災組織の割合は 56.0%など、活動内容にばらつきがみられます。

● 消防団の組織概要等に関する調査によると、令和５年度の本県の消防団員数は、18,857人（令和４年度比 817人減）となる一方で、機能別消防団員数は、1,371 人（令和４年度比 57人増）となっています。

なお、令和５年度の全国の消防団員数は、762,670 人（令和４年度比 20,908 人減）、機能別消防団員数は、34,690 人（令和４年度比 2,572 人増）となっています。

コラム

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画 (2019~2028) においては、県民や岩手県に関わる人々の幸福を守り育てるため、10 の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この 10 の政策分野やいわて幸福関連指標の設定に当たっては、県民の「幸福」について的確に把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。

【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会

Ⅵ 仕事・収入

**農林水産業やものづくり産業などの
活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手**

実感　「仕事のやりがい」、「必要な収入や所得」は、ともに低下しました。

指標　いわて幸福関連指標 15 指標のうち、10 指標が現状値より上昇、5 指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

価格転嫁の円滑化による地域経済の活性化に向けた共同宣言

適切な価格転嫁についての機運醸成等を図るため、関係団体や行政の連名による共同宣言を行いました。

「いわてスタートアップ推進プラットフォーム」の設立

県内の起業や起業家の成長を支援するため、「いわてスタートアップ推進プラットフォーム」を設立しました。

台湾の旅行博覧会での観光PR

台湾の旅行博覧会において、花巻台北線の運航再開と岩手県の観光の魅力の情報発信を行い、誘客拡大を進めました。

サケ・マス類の海面養殖

サケ・マス類の海面養殖の生産拡大に向け、技術開発や生産体制の構築支援など、事業化の推進に取り組みました。

民間商業施設における県産木材の利用

民間商業施設等の木造化・木質化等に対する支援など、県産木材の利用促進に取り組みました。

メタバース空間での交流会・商談会

県内生産者と実需者とのマッチング機会の創出を図るため、メタバース（仮想空間）上での交流会・商談会を開催しました。

主な今後の取組方向

○　正社員の有効求人倍率は、全国で下位にあることから、企業や経済団体等へ正社員採用などに向けた要請活動を行うとともに、企業の採用力向上の取組を支援するなど、安定的な雇用の確

保に取り組みます。

○ 新たな経営人材の育成のため、プラットフォームを核として、起業マインドの醸成等、起業・スタートアップの支援に取り組みます。

○ 外国人観光客の早期回復を図るため、ニューヨーク・タイムズ紙に盛岡市が掲載されたことなどの好機を捉えた市場開拓や戦略的なプロモーションの展開などにより、インバウンドの誘客拡大を推進します。

○ 主要魚種の不漁や貝毒出荷規制の長期化等により、漁業の経営環境が厳しい状況にあることから、養殖業の規模拡大や法人化などの取組を支援し、地域漁業の中核となる強い漁業経営体の育成に取り組みます。

令和５年度の評価結果

［ いわて幸福関連指標の動向 ］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
49	一人当たり県民所得の水準※1	%	① 87.4	② 89.2	↗	⑥ 90.0	③ 90.0	—	—	—
50	正社員の有効求人倍率	倍	0.88	0.90	↗	1.00	1.00	34位(6位)	37位(6位)	↘(→)
51	総実労働時間〔年間〕【再掲】	時間	1,761.6	1,748.4	↗	1,633.0	1,710.1	44位(3位)	45位(4位)	↘(↘)
52	完全失業率	%	2.4	2.5	↘	2.0	2.0	15位(2位)	31位(3位)	↘(↘)
53	高卒者の県内就職率【再掲】	%	74.1	73.6	↘	84.5	84.5	33位(5位)	—	—
54	女性の全国との賃金格差※1	%	84.4	83.0	↘	89.4	85.8	44位(4位)	46位(5位)	↘(↘)
55	従業者一人当たりの付加価値額	千円	② 5,717	③ 6,036	↗	⑦ 6,006	④ 5,831	② 37位(4位)	③ 37位(5位)	→(↘)
56	開業率※2	%	② 3.2	③ 2.7	↘	⑦ 3.6	④ 3.3	② 44位(4位)	③ 44位(4位)	→(→)
57	従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	② 29.6	③ 31.7	↗	⑥ 31.0	③ 29.9	② 37位(4位)	③ 31位(3位)	↗(↗)
58	観光消費額	億円	② 1,142.3	1,755.4	↗	2,042.9	1,657.7	② —(5位)	—	—
59	農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	② 5,312	③ 5,310	↘	⑦ 5,810	④ 5,390	—	—	—
60	林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	② 4,377	③ 5,209	↗	⑦ 4,910	④ 4,700	—	—	—
61	漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	② 4,179	③ 4,206	↗	⑦ 4,200	④ 3,930	—	—	—
62	農林水産物の輸出額	億円	43.0	54.9	↗	69.0	52.0	—	—	—
63	グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,090	1,143	↗	1,220	1,160	—	—	—

※1 全国を 100 とした標準　※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(R3)	R4の値	備考
17	非正規職員・従業員率	%	㉙ 35.7	35.5	—
18	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	① 4,043	② 3,927	—
19	現金給与総額〔5人以上、毎月〕	円	282,811	288,978	—
20	農業産出額	億円	2,651	③ 2,651	—
21	林業産出額	千万円	② 1,782	③ 1,931	—
22	漁業産出額	千万円	② 3,057	③ 2,958	—
23	製造品出荷額	億円	② 24,943	③ 27,133	—
24	ものづくり関連分野の製造品出荷額	億円	② 16,830	③ 18,709	—
25	食料品製造出荷額	億円	② 3,769	③ 3,846	—
26	水産加工品製造出荷額	億円	② 674	③ 631	—
27	事業所新設率	%	㉘～① 11.7	—	—

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
（仕事のやりがい）
仕事にやりがいを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.54	3.39	低 下

調査項目
（必要な収入や所得）
必要な収入や所得が得られていると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
2.65	2.53	低 下

仕事・収入分野を取り巻く状況

- 令和5年6月時点の県内の有効求人倍率は 1.22 倍と、自動車・半導体関連を始めとする県内ものづくり産業の採用意欲が高いこと等により、引き続き高い傾向にありますが、正社員の有効求人倍率は 0.87 倍と全国平均より低い状況にあります。
- 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類移行となり、対面での商談や渡航の制限が緩和され、国・地域間の往来が徐々に再開されています。

  また、いわて花巻空港と台湾を結ぶ国際定期便が再開され、加えて、本県出身スポーツ選手の大活躍やニューヨーク・タイムズ紙による「2023 年に行くべき 52 か所」に盛岡市が選出されるなど、本県に注目が集まっています。
- 海洋環境の変化等により、本県の主要魚種であるサケ、サンマ、スルメイカ等の全国漁獲量が、平成 26 年と比較して令和3年に約1割から4割程度まで減少するなど、危機的な不漁が継続しており、これら主要魚種の不漁を背景に、本県では、漁業協同組合の自営によるサケ・マス類海面養殖などの新たな漁業・養殖業の取組が始まっています。

Ⅶ 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手

実感 「歴史・文化への誇り」は、低下しました。

指標 いわて幸福関連指標3指標のうち、2指標が現状値より上昇、1指標が横ばいとなっています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

いわての3つの世界遺産 パネル巡回展

本県が有する3つの世界遺産の価値や魅力を発信するため、県内6箇所、県外1箇所でパネル巡回展を開催しました。

県立平泉世界遺産 ガイダンスセンター

「平泉」の価値を広く世界中に伝え、後世へ継承するための拠点となる施設として、開館3年目を迎えました。

教員現地研修会

世界遺産を通じて、郷土の歴史や文化について子どもたちの理解が深まるよう、教員等を対象とした研修会を開催しました。

世界遺産出前授業

県内の子どもたちに、本県の3つの世界遺産の価値を伝え、郷土への愛情と誇りが高まるよう、世界遺産出前授業を開催しました。

岩手県民俗芸能フェスティバル

本県の伝統文化や民俗芸能の魅力を発信するため、オンライン配信を取り入れ「岩手県民俗芸能フェスティバル」を開催しました。

県指定文化財の新規指定

文化財の保存・活用のため、「岩手県管轄地誌　乙本」など6件を新規文化財として指定しました。

主な今後の取組方向

○ 世界遺産等の来訪者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等により伸び悩んだことから、SNSを活用したイベント情報等の発信に取り組むほか、県内外におけるパネル巡回展やブース出展、教育旅行の誘致などのプロモーション活動により、人的･文化的交流に取り組みます。

○ 3つの世界遺産の保存と活用を進めるため、保存管理計画に基づく適切な保存管理や「平泉の文化遺産」の世界遺産への拡張登録に向けた取組、学校教育活動を通じた意識の醸成を推進します。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
64	世界遺産等の来訪者数	千人	417	693	↗	991	712	—	—	—
65	国、県指定文化財件数	件	574	579	↗	589	580	31位(3位)	31位(3位)	➡(➡)
66	民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	393	393	➡	393	393	—	—	—

［県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
（歴史・文化への誇り）
地域の歴史や文化に誇りを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R5]	比較
3.28	3.23	低下

歴史・文化分野を取り巻く状況

- 県と一関市、奥州市、平泉町は、令和5年8月、世界遺産「平泉」の構成資産及び関連資産を「ひらいずみ遺産」として位置付けることとしました。
- 文化庁や専門家と意見交換を行いながら、世界遺産拡張登録推薦に向けた取組を進めています。
  また、世界遺産「平泉」関連資産についても、今後の世界遺産拡張登録に向けて、関係市町において、遺跡の調査等が継続して行われています。
- 令和5年4月現在の国内の世界遺産登録件数は 25 件であり、そのうち本県では3件が登録され、奈良県、鹿児島県と並び、国内最多の登録件数となっています。

Ⅷ 自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手

実感 「自然のゆたかさ」は横ばいで、一貫して高い水準にあります。

指標 いわて幸福関連指標７指標のうち、５指標が現状値より上昇、２指標が横ばいとなっています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

ツキノワグマ市街地出没時対応実動訓練

クマの市街地出没に備え、関係機関による屋外での実動訓練を初めて実施しました。

水生生物調査

小中学生を対象とした川の生き物を調べて川のきれいさを判定する水生生物調査に講師を派遣するなど、開催を支援しました。

第73回全国植樹祭いわて2023

天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、約 7,100 人が参加し、健全で豊かな森林を次世代へ引き継いでいく機運の醸成を図りました。

三陸ジオパークフェスタ

三陸ジオパーク推進協議会等と連携し、ジオパークと郷土芸能・文化、みちのく潮風トレイルとの繋がりをテーマにした三陸ジオパークフェスタ及びエクスカーションツアーを実施しました。

3R推進月間ごみゼロキャラバン

３Ｒ推進キャラクター「エコロル」が使い捨てプラスチックごみや食品ロスの削減を呼びかけました。

風力発電所の竣工

全国トップクラスのポテンシャルを生かし、地域と共生した再生可能エネルギーの導入を促進しています。

主な今後の取組方向

○ 「温室効果ガス排出量の 2050 年度実質ゼロ」に向けて、温暖化防止いわて県民会議を中核として県民運動を推進するとともに、高いポテンシャルを生かした再生可能エネルギーの導入や森林吸収源対策を促進し、地域経済と環境に好循環をもたらす脱炭素社会の形成に取り組みます。

○ ツキノワグマの人身被害件数や二ホンジカによる農作物被害額が増加していることから、野生鳥獣の科学的・計画的な管理に取り組みます。

○ 一人1日当たり家庭系ごみ排出量は、県内で唯一ごみ処理の有料化を実施している北上市での削減は進んでいることから、更なる削減に向けて、他市町村への有料化の導入支援などに取り組みます。

令和5年度の評価結果

［ いわて幸福関連指標の動向 ］

指標名		単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
67	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	26	26	➡	26	26	—	—	—
68	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	花茎	④ 115	115	➡	115	115	—	—	—
69	自然公園の利用者数※	千人	339	486	↗	493	401	—	—	—
70	公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	95.7	96.5	↗	95.7	95.7	—	—	—
71	再生可能エネルギーによる電力自給率	%	38.6	41.0	↗	56.2	50.9	—	—	—
72	一般廃棄物の最終処分量	千t	② 37.8	③ 37.4	↗	⑦ 35.8	④ 37.0	② 16位(3位)	③ 20位(3位)	↘(➡)
73	一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	② 520	③ 518	↗	⑦ 493	④ 513	② 17位(1位)	③ 20位(1位)	↘(➡)

※ 自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(R3)	R4の値	備考
28	森林面積割合	%	① 74.6	—	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
（自然のゆたかさ）
自然に恵まれていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R5]	比較
4.21	4.21	横ばい

自然環境分野を取り巻く状況

- 令和４年度のツキノワグマによる人身被害が前年度比９件増の 24 件となっており、さらに令和５年度は人身被害が過去最多を更新し、８月及び 10 月には死亡事故が発生しています。

  また、ニホンジカの捕獲数は令和３年度以降 26,000 頭を超え、３年間で 1.8 倍に増加していますが、令和４年度の農作物被害額は 2.7 億円と過去５年間で最多となりました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加や高齢化の進行に伴う家の片付け等により、県内の令和３年度の粗大ごみの排出量が平成 29 年度比で 17.2％増加しており、全国的に同様の傾向が見られます。
- 国では、令和４年 10 月、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を後押しすることを目的として、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（愛称：デコ活）」及び官民連携協議会を立ち上げ、令和５年８月現在、本県を含む 737 企業・団体等が協議会に参画しています。

Ⅸ 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手

指標 いわて幸福関連指標５指標のうち、３指標が現状値より上昇、２指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

田の浜地区復旧整備工事完成

令和元年台風第 19 号により被害を受けた山田町田の浜地区において、岩手県及び山田町による全ての復旧整備工事が完成しました。

緊急輸送道路の防災対策

災害時に迅速な避難・救急活動や緊急物資の輸送等が行えるよう、緊急輸送道路の通行危険箇所における防災対策を推進しています。

自転車走行空間の整備

自転車走行空間の整備を進めるとともに、自転車を活用した観光振興等を促進するため、広域サイクリングルートを４ルート設定しました。

MSCベリッシマ宮古港寄港

令和５年８月、これまで本県に寄港したクルーズ船で最大規模の「ＭＳＣベリッシマ」が宮古港に寄港しました。

インフラメンテナンス工事現場見学会

将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成を推進するため、高校生を対象とした工事現場見学会を開催しました。

いわて建設業みらいフォーラム

建設業のイメージアップを図り、次世代を担う若者をはじめとした県民の建設業への理解や関心を高めるため、フォーラムを開催しました。

主な今後の取組方向

○ 各分野のＤＸ※1の推進のため、５Ｇなどデジタル基盤の整備を促進するとともに、医療・介護、教育、農林水産業など、県民の生活に関わる様々な分野におけるＡＩ※2やロボットの先端技術をはじめとしたデジタル技術の利活用を推進するとともに、市町村におけるデジタル技術を活用した新たな住民サービスの充実支援などに取り組みます。

○　新型コロナウイルス感染症に端を発した世界的な物流混乱や海上輸送運賃の高騰などの影響を受けたことにより、県内港湾の利用が伸び悩んだことから、令和６年度から運用されるトラックドライバーの労働時間の上限規制や温室効果ガスの排出削減などの社会的要請を踏まえたポートセールスを展開するなど、県内港湾への利用転換を図り、取扱貨物量の拡大に取り組みます。

※1 Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略。デジタル化を手段として、既存の価値観や枠組みを見直す変革を行い、課題解決や新しい価値を創造すること。
※2 Artificial Intelligenceの略。人工知能。

令和5年度の評価結果

［いわて幸福関連指標の動向］

	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位（東北順位）		
								R3	R4	比較
74	インターネットの利用率	%	83.9	84.7	↗	90.0	86.4	42位(5位)	42位(4位)	→(↗)
75	河川整備率	%	51.9	52.6	↗	52.7	52.3	(1位)	(1位)	→
76	緊急輸送道路の整備延長	km	32.5	36.6	↗	42.3	38.1	—	—	—
77	港湾取扱貨物量	万t	506	467	↘	587	517	35位(5位)	—	—
78	社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	424	411	↘	424	424	—	—	—

社会基盤分野を取り巻く状況

- 国においては、令和４年６月７日に閣議決定された「デジタル田園都市国家構想基本方針」において、民間部門におけるＤＸの加速、デジタル人材の育成やデジタルデバイド※の解消など官民挙げたデジタル化の加速に向けた取組を推進するとしています。
- 外国船社クルーズ船は、新型コロナウイルス感染症拡大により、全国的に令和２年度から令和５年２月まで寄港が中止されていましたが、令和５年３月から寄港が再開され、本県港湾では令和５年９月までに外国船社クルーズ船の５回、国内船社クルーズ船の２回の寄港がそれぞれ実現しました。
- 令和６年４月から運送業や建設業においても、時間外労働の上限規制が適用されることから、企業等において、職員の意識改革や業務の見直し・効率化等の取組が進められています。

※　デジタルデバイド：インターネットやパソコン等のICTを利用できる人とできない人の間に生じる格差のこと。
利用者の能力・身体的条件によるものや、超高速ブロードバンドの利用環境など地理的条件によるものなどがある。

Ⅹ 参画

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

指標 いわて幸福関連指標７指標のうち、３指標が現状値より上昇、４指標が下降しています。

令和5年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

いわて男女共同参画社会づくり表彰

男女共同参画の推進に向けた機運の醸成を図るため、男女共同参画社会づくりに功績のあった個人・団体を表彰しました。

いわてネクストジェネレーションフォーラム

誰もが生きやすい岩手を目指すための気付きを得ることを目的として「いわてネクストジェネレーションフォーラム」を開催しました。

いわて女性活躍認定企業等の認定

女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業等を「いわて女性活躍認定企業等」として認定しました。

高齢者社会参加活動

地域の社会貢献活動に取り組んでいるシニア団体の代表者等を講師とした学習会を実施し、社会貢献活動の取り組み方や関係者のネットワークづくりを図りました。

製薬会社と障害者就労支援事業所との農福連携

製薬会社から種苗提供や基礎的な栽培指導を受け、障害者就労支援事業所において漢方薬の原料（生薬）となる薬用作物の作付けを行いました。

社会のニーズに対応したNPO等の活動

薪や木材を活用した木工教室の開催や薪割り体験を通じたコミュニティ形成の支援等、地域課題の解決に取り組むＮＰＯ等の活動を支援しました。

主な今後の取組方向

○ 女性の活躍を支援するため、労働者総数に占める女性の割合を増加させていく必要があることから、関係機関と連携し、いわて女性活躍企業等認定制度の認定メリットの更なる拡充や、専門家派遣による経営者の意識改革、女性のデジタル分野での活躍促進を進め、女性が活躍できる

職場環境づくりを一層推進します。

○ ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加割合は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少していることから、市民活動等に関する情報を発信し、県民の参加･参画機運の醸成を図ります。

○ 地域のＮＰＯと行政等との意見交換や社会貢献活動に取り組む企業等とＮＰＯとのマッチング支援等により、ＮＰＯの活動促進や地域の連携・協働のネットワークづくりに取り組みます。

令和5年度の評価結果

［ いわて幸福関連指標の動向 ］

指標名		単位	現状値(R3)	R4の値	R3との比較	参考				
						計画目標値(R8)	R5目標値	全国順位(東北順位)		
								R3	R4	比較
79	労働者総数に占める女性の割合	%	37.2	38.3	↗	38.6	37.8	24位(5位)	20位(5位)	↗(➡)
80	女性の全国との賃金格差※1【再掲】	%	84.4	83.0	↘	89.4	85.8	44位(4位)	46位(5位)	↘(↘)
81	障がい者の雇用率	%	2.37	2.38	↗	2.70	2.40	17位(1位)	20位(2位)	↘(↘)
82	高齢者のボランティア活動比率	%	25.3	23.6	↘	28.9	26.7	—	—	—
83	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※2【再掲】	%	39.2	39.7	↗	50.0	42.5	—	—	—
84	審議会等委員に占める女性の割合	%	39.9	38.5	↘	40.0	40.0	19位(2位)	—	—
85	ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	15.6	14.6	↘	20.0	17.8	—	—	—

※1　全国を100とした水準
※2　女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(R3)	R4の値	備考
29	管理職に占める女性の割合	%	㉙ 12.3	15.0	5年ごとの調査

参画分野を取り巻く状況

- 性的マイノリティ（ＬＧＢＴ等）に関して、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が令和５年６月 23 日に公布・施行され、政府が取り組む事項や各主体の役割などが定められました。
- 令和４年７月８日に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に係る省令･告示が改正され、常用労働者 301 人以上の大企業に、男女の賃金差異の実績を公表することが義務付けられました。
- 県内のＮＰＯ法人数に占める認定ＮＰＯ法人の割合は、令和５年８月現在で 4.4%となっており、全国的に見ても高い水準となっています。

第3部

データ編

岩手県 二戸市 馬仙峡

いわて幸福白書2024 第3部 データ編

（第２部に使用した「いわて幸福関連指標」、「参考指標」のデータ一覧）

【補足】
※ ▼印の指標は、R3現状値から数値を下げることを目標とするもの、◆印の指標は、R3現状値等を維持することを目標とするものです。
※ 囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※ 実績値が確定していないなどの理由で、達成度の判定ができない又は適当でない指標は「－」と表示しています。

政策分野	指標		指標の状況								全国順位			東北順位			出典
	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	年度目標値 R5	R6	R7	計画目標値(R8)	現状値(R3)	R4	現状値との比較	現状値(R3)	R4	現状値との比較	
Ⅰ健康・余暇	1		健康寿命[平均自立期間]	年	男② 80.03	③ 79.95	④ 80.42	⑤ 80.61	⑥ 80.80	⑦ 81.00	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
	2			年	女② 84.59	③ 84.55	④ 84.92	⑤ 85.08	⑥ 85.24	⑦ 85.41	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
	3		▼がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数[10万人当たり]	人	男② 283.4	③ 279.2	④ 266.6	⑤ 259.6	⑥ 252.6	⑦ 245.8	-	-	-	-	-	-	人口動態統計(厚生労働省)
	4			人	女② 154.5	③ 150.8	④ 131.9	⑤ 128.1	⑥ 124.5	⑦ 120.9	-	-	-	-	-	-	人口動態統計(厚生労働省)
	5		▼自殺者数[10万人当たり]	人	16.2	21.3	15.0	14.9	14.7	14.6	22	46	下降	1	5	下降	人口動態統計(厚生労働省)
	6		▼75歳以上85歳未満高齢者の要介護認定率	%	12.3	16.8	11.9	11.7	11.5	11.3	-	-	-	-	-	-	介護保険事業状況報告(厚生労働省)
	7		訪問診療(歯科を含む)・看護を受けた患者数(10万人当たり)	人	② 6,508	③ 6,782	④ 6,781	⑤ 6,921	⑥ 7,064	⑦ 7,210	-	-	-	-	-	-	医療計画作成支援データブック(厚生労働省)
	8		◆余暇時間[一日当たり] ※休日を含む1週間の平均	分	372	383	382	382	382	382	-	-	-	-	-	-	社会生活基本調査(総務省)、県民意識調査(岩手県)
	9		県内の公立文化施設における催事数 ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な14施設の催事数	件	-	1,253	1,223	1,305	1,388	1,471	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
	10		スポーツ実施率	%	② 65.4	③ 64.7	④ 67.2	⑤ 68.2	⑥ 69.1	⑦ 70.0	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
	11		生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	46.1	36.9	47.0	48.0	49.0	50.0	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)
		1	健康寿命[日常生活に制限のない期間]	年	男① 71.39	-					-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
		2		年	女① 74.69	-					-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
		3	喫煙率	%	① 20.9						-	-	-	-	-	-	国民生活基礎調査(厚生労働省)
Ⅱ家族・子育て	12		合計特殊出生率		1.30	1.21	1.35	1.42	1.50	1.58	36	39	下降	4	4	横ばい	人口動態統計(厚生労働省)
	13		▼待機児童数[4月1日時点]	人	12	35	0	0	0	0	19	34	下降	4	5	下降	保育所等利用待機児童数調査(子ども家庭庁)
	14		◆地域の行事に参加している生徒の割合[中学生]	%	62.9	55.3	64.0	64.0	64.0	64.0	3	5	下降	1	1	横ばい	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	15		▼総実労働時間[年間]	時間	1,761.6	1,748.4	1,710.1	1,684.4	1,658.7	1,633.0	44	45	下降	3	4	下降	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)
	16		共働き世帯の男性の家事時間割合[週平均] ※女性の家事時間に対する割合	%	39.2	39.7	42.5	45.0	47.5	50.0	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
	17		犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	18			%	猫 98.8	100.0	99.1	99.4	99.7	100.0	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		4	共働き男性の家事時間	分	125	117					-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
		5	共働き女性の家事時間	分	319	295					-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
		6	50歳時未婚率	%	男 ② 29.61	-					-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)
		7	50歳時未婚率	%	女 ② 16.70	-					-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)

政策分野	指標		指標の状況								全国順位			東北順位			出典
	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	年度目標値 R5	R6	R7	計画目標値(R8)	現状値(R3)	R4	現状値との比較	現状値(R3)	R4	現状値との比較	
Ⅲ教育	19		◆意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 82.5	81.2	82.5	82.5	82.5	82.5	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	20			%	中 85.4	83.2	85.4	85.4	85.4	85.4	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	21		◆授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 83.0	82.6	83.0	83.0	83.0	83.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	22			%	中 83.5	83.3	83.5	83.5	83.5	83.5	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	23		人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	◆小 68	66	70	70	70	70	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査
	24			%	◆中 67	68	68	68	68	68	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査
	25			%	高 62	65	66	67	68	70	-	-	-	-	-	-	県意識調査
	26		自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 76.4	77.3	78.0	78.0	79.0	80.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	27			%	中 76.2	78.1	78.5	78.5	79.0	79.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	28		◆体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男 68.9	65.0	70.0	70.0	70.0	70.0	10	15	下降	2	2	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)
	29			%	小 女 79.1	77.1	80.0	80.0	80.0	80.0	8	9	下降	2	2	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)
	30			%	中 男 74.8	73.6	75.0	75.0	75.0	75.0	5	4	上昇	2	2	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)
	31			%	中 女 88.8	88.4	90.0	90.0	90.0	90.0	7	3	上昇	1	1	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)
	32		◆特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	96.0	96.6	96.0	96.0	96.0	96.0	-	-	-	-	-	-	県教育委員会調べ
	33		◆高卒者の県内就職率	%	74.1	73.6	84.5	84.5	84.5	84.5	33	-	-	5	-	-	岩手労働局調査
	34		将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 82.1	82.6	83.0	83.3	83.6	84.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	35			%	中 72.8	73.3	73.8	74.5	75.2	76.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
	36		県内大学等卒業者の県内就職率	%	47.0	42.1	48.5	49.0	49.5	50.0	-	-	-	1	2	下降	岩手労働局調査
		8	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 50	46					-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
		9		%	小 算数 42	52					-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
		10		%	中 国語 37	40					-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
		11		%	中 数学 57	56					-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
		12	不登校児童生徒数[千人当たり]	人	小 8.4	11.3					-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)
		13		人	中 39.6	46.5					-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)
		14		人	高 19.8	20.1					-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	37		県外からの移住・定住者数	人	1,584	1,647	1,830	2,030	2,250	2,500	-	-	-	-	-	-	県商工労働観光部調べ
	38		汚水処理人口普及率	%	84.4	84.9	87.9	89.4	91.0	91.1	35	35	横ばい	5	5	横ばい	県県土整備部調べ
	39		三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	10.2	11.0	14.3	16.3	16.4	16.5	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
	40		地縁的な活動への参加割合	%	33.3	32.6	36.0	38.5	41.5	44.5	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
	41		在留外国人数[10万人当たり]	人	597.0	703.9	693.0	743.8	795.7	849.2	45	45	横ばい	4	4	横ばい	・在留外国人統計(法務省) ・住民基本台帳に基づく人口

政策分野	指標		指標の状況								全国順位			東北順位			出典
	関連指標 いわて幸福	参考指標	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	年度目標値 R5	R6	R7	計画目標値(R8)	現状値(R3)	R4	現状値との比較	現状値(R3)	R4	現状値との比較	
Ⅳ居住環境・コミュニティ	42		(文化施設入場者数) ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数	千人	② 33	③ 77	④ 126	⑤ 145	⑥ 165	⑦ 185	-	-	-	-	-	-	岩手県公立文化施設協議会調べ
	43		(スポーツ施設入場者数) ※県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数	万人	486	597	594	649	703	757	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
		15	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	1,214	1,296	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
		16	持ち家比率	%	㉚ 69.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	住宅・土地統計調査(総務省)
Ⅴ安全	44		自主防災組織の組織率	%	88.5	89.0	89.8	90.4	91.0	91.8	28	-	-	2	-	-	消防防災・震災対策現況調査(消防庁)
	45		▼刑法犯認知件数	件	2,507	2,655	2,560	2,470	2,380	2,300	2	2	横ばい	2	2	横ばい	県警察本部調べ
	46		▼交通事故発生件数[千人当たり]	件	1.29	1.28	1.23	1.18	1.14	1.10	4	6	下降	1	2	下降	警察本部統計
	47		◆食中毒の発生人数[10万人当たり]	人	1.3	1.4	7.3	7.3	7.3	7.3	4	5	下降	2	1	上昇	食中毒統計資料(厚生労働省)
	48		新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数	機関	-	-	27	37	50	60	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
Ⅵ仕事・収入	49		◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準	%	① 87.4	② 89.2	③ 90.0	④ 90.0	⑤ 90.0	⑥ 90.0	-	-	-	-	-	-	県民経済計算年報(内閣府経済社会総合研究所)
	50		◆正社員の有効求人倍率	倍	0.88	0.90	1.00	1.00	1.00	1.00	34	37	下降	6	6	横ばい	一般職業紹介状況(岩手労働局)
	51		▼総実労働時間[年間]【再掲】	時間	1,761.6	1,748.4	1,710.1	1,684.4	1,658.7	1,633.0	44	45	下降	3	4	下降	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)
	52		◆完全失業率	%	2.4	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	15	31	下降	2	3	下降	労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)
	53		◆高卒者の県内就職率【再掲】	%	74.1	73.6	84.5	84.5	84.5	84.5	33	-	-	5	-	-	岩手労働局調査
	54		女性の全国との賃金格差 ※全国を100とした水準	%	84.4	83.0	85.8	87.0	88.2	89.4	44	46	下降	4	5	下降	全国賃金構造統計調査(厚生労働省)
	55		従業者一人当たりの付加価値額	千円	② 5,717	③ 6,036	④ 5,831	⑤ 5,889	⑥ 5,947	⑦ 6,006	② 37	③ 37	横ばい	② 4	③ 5	下降	企業活動基本調査(経済産業省)
	56		開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率	%	② 3.2	③ 2.7	④ 3.3	⑤ 3.4	⑥ 3.5	⑦ 3.6	② 44	③ 44	横ばい	② 4	③ 4	横ばい	雇用保険事業年報(厚生労働省)
	57		従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	② 29.6	③ 31.7	③ 29.9	④ 30.3	⑤ 30.6	⑥ 31.0	② 37	③ 31	上昇	② 4	③ 3	上昇	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
	58		観光消費額	億円	② 1,142.3	1,755.4	1,657.7	1,829.5	1,936.2	2042.9	-	-	-	② 5	-	-	岩手県観光統計
	59		農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	② 5,312	③ 5,310	④ 5,390	⑤ 5,530	⑥ 5,670	⑦ 5,810	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
	60		林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	② 4,377	③ 5,209	④ 4,700	⑤ 4,770	⑥ 4,840	⑦ 4,910	-	-	-	-	-	-	生産林業所得累計統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
	61		漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	② 4,179	③ 4,206	④ 3,930	⑤ 4,020	⑥ 4,110	⑦ 4,200	-	-	-	-	-	-	漁業産出額統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
	62		農林水産物の輸出額	億円	43.0	54.9	52.0	57.0	63.0	69.0	-	-	-	-	-	-	岩手県貿易等実態調査(日本貿易振興機構)
	63		グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,090	1,143	1,160	1,200	1,210	1,220	-	-	-	-	-	-	県農林水産部調べ
		17	非正規職員・従業員率	%	㉙ 35.7	35.5					-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)
		18	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	① 4,043	② 3,927					-	-	-	-	-	-	県民経済計算(総務省)
		19	現金給与総額[5人以上、毎月]	円	282,811	288,978					-	-	-	-	-	-	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)
		20	農業産出額	億円	2,651	③ 2,651					-	③ 10	-	-	③ 2	-	生産農業所得統計等(農林水産省)
		21	林業産出額	千万円	② 1,782	③ 1,931					-	③ 6	-	-	③ 1	-	農林水産統計(農林水産省)
		22	漁業産出額	千万円	② 3,057	③ 2,958					-	③ 14	-	-	③ 3	-	農林水産統計(農林水産省)

政策分野	指標		指標の状況								全国順位			東北順位			出典
	関連指標 いわて幸福	参考指標	指標名	単位	現状値(R3)	R4の値	年度目標値 R5	R6	R7	計画目標値(R8)	現状値(R3)	R4	現状値との比較	現状値(R3)	R4	現状値との比較	
Ⅵ仕事・収入		23	製造品出荷額	億円	② 24,943	③ 27,133					-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
		24	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	② 16,830	③ 18,709					-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
		25	食料品製造出荷額	億円	② 3,769	③ 3,846					-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
		26	水産加工品製造出荷額	億円	② 674	③ 631					-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
		27	事業所新設率	%	㉘～① 11.7	-					-	-	-	-	-	-	経済センサス(総務省)
Ⅶ歴史・文化	64		世界遺産等の来訪者数	千人	417	693	712	805	898	991	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
	65		国、県指定文化財件数	件	574	579	580	583	586	589	31	31	横ばい	3	3	横ばい	県教育委員会調べ
	66		民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	393	393	393	393	393	393	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
Ⅷ自然環境	67		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	26	26	26	26	26	26	-	-	-	-	-	-	県環境保健研究センター調べ
	68		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	花茎	④ 115	115	115	115	115	115	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	69		自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数	千人	339	486	401	431	462	493	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	70		◆公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	95.7	96.5	95.7	95.7	95.7	95.7	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	71		再生可能エネルギーによる電力自給率	%	38.6	41.0	50.9	51.0	53.8	56.2	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	72		▼一般廃棄物の最終処分量	千t	② 37.8	③ 37.4	④ 37.0	⑤ 36.6	⑥ 36.2	⑦ 35.8	② 16	③ 20	下降	② 3	③ 3	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
	73		▼一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	② 520	③ 518	④ 513	⑤ 507	⑥ 500	⑦ 493	② 17	③ 20	下降	② 1	③ 1	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
		28	森林面積割合	%	① 74.6	－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	農林業センサス(農林水産省)
Ⅸ社会基盤	74		インターネットの利用率	%	83.9	84.7	86.4	87.6	88.8	90.0	42	42	横ばい	5	4	上昇	総務省「通信利用動向調査」を参考
	75		河川整備率	%	51.9	52.6	52.3	52.4	52.5	52.7	-	-	-	1	1	横ばい	河川課調べ
	76		緊急輸送道路の整備延長	km	32.5	36.6	38.1	39.4	40.5	42.3	-	-	-	-	-	-	道路建設課調べ
	77		港湾取扱貨物量	万t	506	467	517	523	571	587	35	-	-	5	-	-	港湾統計(国土交通省)
	78		◆社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	424	411	424	424	424	424	-	-	-	-	-	-	県土整備部調べ(道路環境課・河川課)
Ⅹ参画	79		労働者総数に占める女性の割合	%	37.2	38.3	37.8	38.1	38.4	38.6	24	20	上昇	5	5	横ばい	賃金構造基本統計調査(厚生労働省)
	80		女性の全国との賃金格差【再掲】 ※全国を100とした水準	%	84.4	83.0	85.8	87.0	88.2	89.4	44	46	下降	4	5	下降	全国賃金構造統計調査(厚生労働省)
	81		障がい者の雇用率	%	2.37	2.38	2.40	2.50	2.50	2.70	17	20	下降	1	2	下降	障害者雇用状況報告書の集計結果(岩手労働局)
	82		高齢者のボランティア活動比率	%	25.3	23.6	26.7	27.4	28.1	28.9	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)
	83		共働き世帯の男性の家事時間割合[週平均]【再掲】 ※女性の家事時間に対する割合	%	39.2	39.7	42.5	45.0	47.5	50.0	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
	84		審議会等委員に占める女性の割合	%	39.9	38.5	40.0	40.0	40.0	40.0	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
	85		ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	15.6	14.6	17.8	18.9	19.5	20.0	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
		29	管理職に占める女性の割合	%	㉙ 12.3	15.0					-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)

いわて幸福白書 2024

岩手県政策企画部政策企画課
〒020-8570 盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-5509
https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/suishin/1018014/index.html